

# 日本消防



- 第33回全国消防殉職者慰霊祭
- 消防団を中核とした地域防災力充実強化大会

10  
2014

口 絵 第33回全国消防殉職者慰霊祭 H26.9.11 (木) 於 ニッショーホール  
平成26年度 日本消防協会臨時理事会 H26.9.11 (木) 於 日本消防会館  
「平成27年度消防団関係財政措置の充実確保などについて」の要望書を提出 H26.9.11 (木)

巻頭言 地域防災力の要として .....	(公財)長崎県消防協会 会長 寺田 信雄 .....	1
日消の動き 女性消防団国際会議 .....	(公財)日本消防協会 会長 秋本 敏文 .....	3
第33回全国消防殉職者慰霊祭 .....	(公財)日本消防協会 .....	4
消防団を中核とした地域防災力充実強化大会 .....	(公財)日本消防協会 .....	9
豪雨災害状況 .....		22
ラジオ番組「おはよう!ニッポン全国消防団」坂本森男消防庁長官 出演 .....	(公財)日本消防協会 .....	26
特別表彰「まとい」を受章して「地域に根付いた防災組織を目指して」 .....	新居浜市消防団 団長 高橋 眞次 .....	28
東西南北(栃木県)「我が町を守る」 .....	那須塩原市黒磯消防団 団長 相馬 岩利 .....	30
東西南北(茨城県)「安全・安心感を与えられる消防団づくりを目指して」 .....	神栖市消防団 団長 野口 来 .....	32
東西南北(岡山県)「地域への想い」 .....	井原市消防団 団長 志多木 精二 .....	34
東西南北(福岡県)「災害のない町から災害に備える町へ」 .....	大刀洗町消防団 団長 大場 雅之 .....	36
シンフォニー(宮崎県)「地域を守るわたしたち消防団」～安心・安全なまちづくりのために～ .....	西都市消防団 女性部 部長 黒岩 潤 .....	38
シンフォニー(長野県)私たち「諏訪市消防団女性班」! .....	諏訪市消防団 団本部 部長 加藤 亜由美 .....	40
消防育英会臨時理事会の開催について .....	(公財)消防育英会 .....	42
「ありがとね!消防団 水防団」消防団水防団応援事業所制度をはじめました .....	(一財)岐阜県消防協会 .....	43
うちの名物団員 .....		44
消防団の広場(兵庫県)「操法大会に参加して」 .....	篠山市消防団 第14分団 団員 山本 大智(指揮者) .....	46

編集後記

## 表紙写真説明

「真岡鐵道 SL もおか号」

真岡線は、茨城県筑西市と栃木県茂木町を結ぶ第三セクターの鉄道です。

21世紀を担う子供たちに「夢とロマン」を育むことを目的に、SL列車の運行を行っています。現在、真岡線を走るSLは、「C12 66」と「C11 325」の2両。1年を通じて、毎週土曜日・日曜日・祝日を中心に1日1往復運行し、鉄道ファンだけでなく、多くの家族連れや旅行者を楽しませています。

栃木県 芳賀広域(構成市町 真岡市・益子町・茂木町・市貝町・芳賀町)

# 第33回全国消防殉職者慰霊祭

平成26年9月11日（木） 於 ニッショーホール



日本消防協会 秋本会長式辞



安倍内閣総理大臣の追悼のことば



# 平成26年度 日本消防協会臨時理事会

平成26年9月11日（木） 於 日本消防会館



## 「平成27年度消防団関係財政措置の充実 確保などについて」の要望書を提出

平成26年9月11日（木）



高市総務大臣に要望書を提出



# 第33回全国消防殉職者慰霊祭

平成26年9月11日（木） 於 ニッショーホール



日本消防協会 秋本会長式辞



安倍内閣総理大臣の追悼のことば

# 平成26年度 日本消防協会臨時理事会

平成26年9月11日（木） 於 日本消防会館



## 「平成27年度消防団関係財政措置の充実 確保などについて」の要望書を提出

平成26年9月11日（木）



高市総務大臣に要望書を提出



## 地域防災力の要として

(公財)長崎県消防協会 会長 寺田 信雄



私は、晴れて成人を迎えた年に消防団に入団、以来消防に身を置いて昨年半世紀を超えることとなった。一口に「光陰矢のごとし」とは言っても長い間に大きな自然災害や火災に遭遇し、多くの方々が犠牲になり、我々消防団の仲間も危険にさらされながら、命がけの避難・救助活動等行事中にケガをしたり、亡くなったことなど、様々な消防団活動の中で記憶に残る出来事が走馬燈のように去来する今日この頃である。

私が所属した分団は、長崎市で一番の繁華街を含む一帯を管轄している長崎市第1分団である。入団当時、分団規模は40名～45名で、団員の職業はほとんどが商店主など自営業や職人であったが、産業構造の変化とともに、多くがサラリーマンとなり、共働き世帯が増え、男女共同参画の時代にあって、消防団も社会の変化に敏感に対応すべき環境にある。

当時は点検・訓練はそれぞれ月に1回、仕事を終えた後の夜に車の手入れ、1回は日曜日の昼間、峠をひとつ越え川がある茂木地区に出かけての水出し操法訓練であった。

また、装備は今と格段に違い、水に濡れたホースは3倍ぐらいに膨れあがり、おまけに重い。ヘルメット、防火着がなく、放水で法被から下着までずぶ濡れになった。また、消防車がオンボロでいざ火事が出動という時に、エンジンがかからない。この時はみんなで押ししたり、他の車で引っ張ってもらったりしたものだった。

定期点検後、あるいは火事の後始末の後、車座になりおでんをつまみに差し入れの日本酒をみんなでワァーワァー言って飲んでいった。この時の先輩、同僚とのつきあいで、人と人との絆を深め、消防団活動を通じて地域社会のために奉仕することの大切さを学んだと思っている。今は、会社員や公務員の消防団員に聞くと、仕事中はパソコンに向い、会話も少なく、上司や部下また同僚とのコミュニケーションが減ったとの話を耳にするが、先輩や上司の豊富な経験を聞いて学ぶ機会が減り、互いにコミュニケーションをとることも難しい時代になったと思う。消防団では団結力が第一、一致団結して災害に取り組むことが大事なので、良き伝統を重んじており、地域との関わりが少ないサラリーマンの消防団への加入を大いに期待しているところである。

平成20年4月に長崎県消防協会会長を拝命して、早6年半が過ぎ去ろうとしている。この間の消防協会の行事その他を振り返って、私なりに感じたままを述べたい。

各消防団の消防出初式には、従来から協会会長・副会長が手分けして、できる限り出席している。

今年の出初式には地元以外に4市町に出席した。その中で印象的だったのは大村市と長与町の出初式であった。

大村市は、長崎県のほぼ中央に位置しており、世界初の海上空港である長崎空港があり、また九州横断自動車道が市の中心部から近い

ため、長崎県の玄関口として、近年先端技術企業が進出し、人口も増加しており県内でも元気な市の一つである。

また、日本最初のキリシタン大名である大村純忠を輩出し、天正遣欧少年使節団を派遣したゆかりの地である。玖島城跡を取り囲むように創られた大村の名所「大村公園」には、「日本さくら名所百選」に選ばれた桜をはじめ、西日本随一の景観を誇る花菖蒲など、さまざまな花が咲き、県内外の観光客を引きつける安らぎのスポットとなっており、国道に面した便利な場所のためドライブで立ち寄る人も多い。

大村市の出初式は、大村市民会館において式典後に、観閲行進、一斉放水と続き、稟とした空気の中で、新たな年を迎えるにふさわしい文字通り身の引き締まる式典であり、出初式は、団員の顔の見える地域に密着した消防団の原点を感じる素晴らしい出初式であった。

長与町は、長崎市の北部に位置する自然豊かな町で、山々に囲まれコンパクトにまとまった町である。昭和40年代から、長崎市北部の発展とともに宅地開発が進み、人口も急増し長崎市のベッドタウンとして発展を遂げている。今では、町の人口としては4万2千人強と長崎県下最多の人口となっている。町内には幼稚園から県立大学までの教育機関のほか、県立長崎高等技術専門学校など施設が整い、都市計画によるインフラ整備も進んでおり、住環境の整った学園都市として若い世代が多い活気のある町である。

長与町の出初式は、式典後、ラッパ隊を先頭に町内をめぐるパレードが圧巻である。その後、町の中心部を流れる長与川より取水し一斉放水が始まる。沿道には保育園児や小学生を始め、多くの見物客で賑わい、消防団が地域防災の要であることを実感する瞬間である。余談だが、長与町では昭和57年7月23日の長崎大水害の際、1時間の最大雨量が187mmで現在でもわが国観測史上第一位の驚異的な

降水量を記録し、甚大な被害を受けた。こうした災害を経験して町民の自然災害に対する関心も高く、長与町消防団ではいつ発生するかわからない災害に備えて日頃の訓練に励んでいると聞いている。

国においては、団員の1割を女性消防団員とする目標を掲げているが、長崎県では団員総数の1%強の250名余であり、県協会では、これから如何に増やしていくかが課題である。

私が所属する長崎市消防団では30名の女性団員がいるが、住宅用火災警報器の設置について、消防署員と一緒に街頭宣伝あるいは一般家庭への予防査察を行っている。そのほか保育園、児童館で防火講話、避難防火訓練の補助あるいは防火紙芝居を開催しているが、小学生を対象とした講話では、消火器の取扱指導も加えて行うなど、女性が持つ強みが発揮される活動を実施している。

一方では、消防団員の減少に歯止めがかからない。人口1万人当たりの消防団員数は全国平均の2倍を超えているが、消防団員数約2万人強と昭和20年代から半減している状況にあり、過去5年間の減少数は全国の中でも目立っており、肩身が狭いところである。

行政では、県が市町と連携して「消防団協力事業所表示制度」導入の働きかけや、消防団員確保のための広報・啓発活動など、団員を確保するための方策に取り組んでいる。

長崎県では、10月12日に第69回国民体育大会「長崎がんばらんば国体」、11月1日から「長崎がんばらんば大会」が開幕する。全国から競技や応援のため多くの方々がお越しになる。快くお迎えするためにも安全で安心なまちづくりが大切である。地域住民の安全・安心を確保するため、われわれ消防団員は地域住民の一人として、地域防災力の要である消防団を次の世代に確実に引き継いで行くことが課せられた使命と思い、協会の仕事に臨んでいる。



# 女性消防団国際会議

(公助)日本消防協会 会長 秋本 敏文

9月29日、世界初の女性消防団国際会議を開催しました。日本だけでなく世界各国の消防で女性が活躍していますが、いろいろな機会にうかがっていますと、各国とも女性の具体的な活動内容や活動環境の整備などの問題に直面しながら、解決に努力していることがわかってきました。そこで、今回、8か国の代表女性によるシンポジウムを開催して、意見交換、情報交流を試みることにしました。

会議には、ロシア、カナダ、フィンランド、セルビア、スロベニア、スウェーデン、アメリカ、そして日本が参加しました。最初に、各国から、女性消防団員のことを中心とする消防事情や女性の具体的な活動などについてお話して頂き、その後、会場を含めての意見交換を行いました。

各国それぞれに異なる事情があり、それが短時間の説明だけでは理解しにくい状況で、いきなりの意見交換ですから限界が大きいのですが、何しろ世界初、やることに意味があると思いつつ、私が議論の進行役をさせて頂きました。

各国の女性の活動内容が議論の大きなポイントだったのですが、粗っぽく大別しますと、男性と女性の活動をはっきり区別している国と、男女同一としている国があります。前者は、ロシア、セルビアですが、意見交換の中で、女性の活動分野を拡大する方向で見直す動きを始めているという話がありました。アメリカ、フィンランド、スウェーデンは男女同一型といってよいでしょうが、しかし実情は、女性にはむつかしい体力テスト、日常的なセクハラ、男性向きのままの施設など、いろいろな問題があることも話してくれました。率直な話で、新しい発見でした。

各国とも女性の活動が益々重要になっているのですが、具体的な問題については、それぞれ異なる事情、考え方、歴史がありますから、安直に他の国の真似をすることは勿論できません。しかし、今回の大会で得たものは、それぞれの国のこれからの発展にとって参考になると思います。

日本では、ご承知のように消防団員が減少するなかで女性団員は着実に増加しています。それは、応急手当の普及や高齢者の防火指導のように、地域の人たちの安全確保のために求められる消防団活動の拡がりがあるのでしょうか、最近のさまざまな災害の状況や住所地以外にお勤めで平日昼間不在の消防団員が増加していること、昨年成立の「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」の趣旨を活かした地域防災力強化対策の推進など、消防団をとりまく環境の変化に的確に対応するうえで、女性の具体的な活動は、重要なテーマのひとつでしょう。11月14日は、千葉県消防関係の皆さんのご尽力により第20回全国女性消防団員活性化ちば大会を開催します。また一段と盛り上がるでしょう。

# 第33回全国消防殉職者慰霊祭

(公財) 日本消防協会

第33回全国消防殉職者慰霊祭が9月11日（木）、東京都港区のニッショーホールにおいて関係者約700名が参加して執り行われました。

今回、新たに合祀された御霊は3柱、総合祀数は5,682柱となりました。



安倍内閣総理大臣、高市総務大臣をはじめとすご来賓各位並びに全国消防関係者多数の方々が参列され、御霊の奉納、国歌斉唱、黙とうの後、日本消防協会秋本会長の式辞に続いて、安倍内閣総理大臣、高市総務大臣から追悼のことばをいただきました。

続いてご遺族を代表して宮城県の山内美代子様追悼のことばを述べられた後、参列者による献花、江戸消防記念会による鎮魂の歌（木遣り）が行われ、秋本会長のお礼のあいさつで式典は終了しました。





## 式 辞

### 日本消防協会 会長 秋本 敏文

第33回全国消防殉職者慰霊祭に当たり、尊くも消防の使命に殉じられた数多くの御霊に対し、謹んで哀悼の誠をささげます。

本日の慰霊祭には、全国からご遺族をお迎えするとともに、安倍内閣総理大臣、高市総務大臣をはじめとするご来賓の方々、さらに全国消防関係者多数のご参列を頂きました。深く感謝申し上げます。

今回の新合祀を含む御霊は5,682柱であります。自らを危険にさらしながら、国民の生命、身体、財産を護るという消防の使命遂行に身を挺し、火災や自然災害の現場において職に殉じられた方々であります。特に近年におきましては、3年半前の東日本大震災におきまして、228柱もの多数の御霊を合祀させて頂きました。私どもはこのような経験からも殉職という事態をなくすよう安全確保のための装備の充実などに努力いたしておりますが、先般、広島市の土砂災害におきまして、消防職員一人が殉職されました。使命達成への強い思いをこのうえなく尊いものと思いながら、痛恨の思いはまことに堪え難く、心よりご冥福をお祈りいたします。



式辞 秋本会長

慰霊祭に当たりご遺族の方々の胸中をお察ししますと、万感胸に迫り申し上げる言葉がございません。今はただひたすら、ご遺族の皆様のご健勝ご多幸をお祈り申し上げます。

近年、これまでに経験したことのない異常な気象状況のもとでさまざまな災害が発生しております。今日も各地に大雨警戒の情報が出されております。そのような状況の中で昨年「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が成立し、消防の役割が益々重要とされました。消防がその使命を達成するためには、消防団員職員が自らの安全を確保しながら必要な活動を続けることができるようにしなければなりません。私たちはこれからも、必要な情報の共有など、安全確保のために最善の努力をすることをお誓いいたします。それが尊霊のご遺訓に沿って消防の使命達成をめざす道であると存じます。

最後に、御霊の安らかなご冥福を心からお祈り申し上げて式辞といたします。

## 追悼のこトバ

### 内閣総理大臣 安倍 晋三

第33回全国消防殉職者慰霊祭に当たり、謹んで追悼の言葉を申し上げます。

このたび新たに祀られた3名の消防団員、消防活動に協力いただいた方のご冥福をお祈りするとともに、身をもって示したその強い使命感と勇氣に、衷心より敬意と感謝を表します。

皆様は、地域住民を守るという強い使命感のもと、その責務を全うしようと、尊くも犠牲になりました。

愛する家族を失われたご遺族の悲しみ、



追悼のこたば 安倍内閣総理大臣

無念さを思うと、悲痛の念に堪えません。ご遺族の皆様に対し、心からお悔やみを申し上げます。

我が国は、その自然条件から、地震、台風、豪雨などによる災害が、場所を問わず、発生しやすい環境にあり、これらの災害は、国民のかけがえのない命と財産を容赦なく奪っていきます。

ひとたび災害が発生すれば、先陣を切って災害現場に駆けつけ、我が身の危険を顧みず、果敢にそして献身的に活動する消防職員、団員に、国民は大きな信頼と期待を寄せています。今般の広島市における土砂災害の現場においても、消防職員、団員が、極めて困難な状況の中、昼夜を分かたず、懸命に、救命・救助活動に当たられ、その中で、1人の消防職員が尊い命を落とされたのであります。

私たちは、これまでに祀られた5,682柱の御霊の尊い犠牲を無駄にすることなく、そのご遺志に応えるため、災害から人命を守り、「世界一安全な国」の実現に全力を尽くしてまいります。

ここに改めて、御霊の安らかならんことお祈り申し上げますとともに、ご遺族の皆様のご平安を切に祈念いたします。

## 追悼のこたば

### 総務大臣 高市 早苗

第33回全国消防殉職者慰霊祭に当たり、謹んで追悼の言葉を申し上げます。

また、先月の広島市で発生した土砂災害をはじめ、今夏の大雨被害で亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された方に心からお見舞い申し上げます。

火災や地震、台風、集中豪雨などの災害から国民の命を守る消防の活動は、多くの危険や困難と隣り合わせです。

本日、新たに祀られる3柱の御霊も、地域を災害や事故から守る活動の中で、また、住民の安全を守るための弛まぬ訓練の中で、尊くも犠牲になられた、消防団員と消防協力者でございます。

また、災害発生から間もないため、今回は合祀することができませんでしたが、広島市の土砂災害においては、避難誘導中の消防職員1名が殉職するという痛ましい出来事がございました。このような形で志高い消防職員を失ったことは、消防行政を所管する大臣として、痛恨の極みでございます。

その身をもって示された崇高なる強い責任感、行動は、私どもが常に銘記しておく



追悼の言葉 高市総務大臣

べき消防精神の発露であります。この尊い犠牲を永く後世に受け継いでゆかねばなりません。

尊い犠牲となった先人のご遺志にこたえるためにも、今後発生が懸念される大規模災害等に備え、地域の消防防災体制の充実強化に最善の努力を尽くすとともに、消防職団員の活動時の安全対策に取り組むことが必要です。

国民の命を守るために、そして人命確保に努める消防職団員ご自身の身を守るために様々な施策を推進してまいります。

ここに改めて、御霊の心安らかならんこととお祈り申し上げ、まだまだ深い悲しみの癒えないご遺族の皆様方がご健康でありますように、また1日も早く心穏やかな日々を取り戻されますようにお祈り申し上げます、追悼の言葉といたします。

## 追悼のことば

### 宮城県 南三陸町 遺族代表 山内 美代子

本日、ここに第33回全国消防殉職者慰霊祭が執り行われるにあたり、全国の消防殉職者の遺族を代表して、追悼の言葉を申し上げます。

私の夫は、東日本大震災の発生と同時に消防署に向かい、庁舎で情報収集後に、国道沿いで家族の安否確認のために、街区に向かう車両への避難誘導中に、津波に巻きこまれたと聞いております。

あの日から3年6ヶ月経ちましたが、あの日の事は、月日が経ちましても決して忘れることはありません。

私たち遺族は、在りし日の消防活動に励む姿を思うにつけ悲しみは増しま

すが、あなたが地域の安全を守るという崇高な消防の使命に殉じたことは、大きな誇りでもあります。

この事を心のより所とし、残された家族で助け合い、消防関係の方々の励ましとご支援に感謝しながら、心をひとつにして、苦しみや悲しみを乗り越えてまいりますので、天国から暖かく見守っててください。

本日は、日本消防協会をはじめ全国の消防関係の皆様方のご厚情により、安倍内閣総理大臣をはじめ多数の方のご臨席のもと、このような厳粛な慰霊祭が執り行われ、御霊の安らかなご冥福と、私達遺族に温かいお言葉を賜りました。

皆様からいただきました温かい励ましとご支援に心から感謝申し上げます。

私達は、今日からまた、気持ちを新たに日々力強く生きていくことをお誓いいたします。

終わりに、御霊の安らかなるご冥福をお祈りいたしますとともに、本日ご参列の皆様方のご健勝と、国民の生命と財産を守るために尊い業務に従事されている多くの消防人の方々の安全を心からお祈り申し上げます、追悼の言葉とさせていただきます。



追悼のことば 山内さん





御霊の奉納



黙祷



献花



献花 安倍内閣総理大臣



鎮魂の歌 (木遣り)



全国消防殉職者慰霊碑

# 消防団を中核とした地域防災力充実強化大会

(公財) 日本消防協会

平成26年8月29日(金)「消防団を中核とした地域防災力充実強化大会」が、東京国際フォーラムにおいて、安倍晋三内閣総理大臣、新藤義孝総務大臣、古屋圭司防災担当大臣をはじめとするご来賓多数のご出席のもと、約1,500人のご参加により開催しました。

この大会は、平成25年12月の臨時国会で「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が成立したことを契機として、地域防災の中核である消防団の充実強化を進めるとともに、消防団が重要な役割を果たしながら、地域の企業、各種団体はもとより、サラリーマン、女性、若者などを含む住民の皆さんの総力を結集して、地域防災力の充実強化を推進しようとするものです。

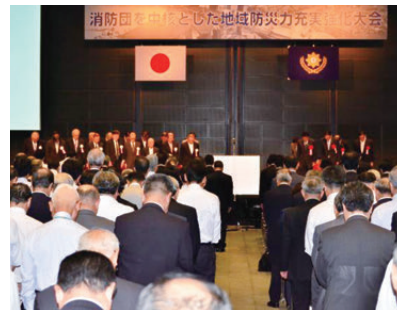
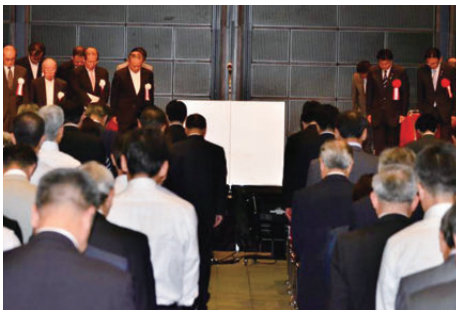
この法律の趣旨をいかして、お一人お一人の安全を確保するために、広く皆様のご理解を頂き、そのご参加のもとで国民運動的な盛り上がりを進めることが必要であり、その第一歩となる大会となりました。

平野啓子さんの司会進行で大会は開会されました。



## ○ 黙とう

平成26年8月20日、広島市で大規模な土砂災害が発生し多数の方々がお亡くなりになりました。開会に先立ち日本各地の様々な災害によりお亡くなりになった方々の御霊に対し黙とうを捧げました。



## 【大会内容】

### ○ 主催者あいさつ (公益財団法人日本消防協会 会長 秋本敏文)

日本消防協会会長の秋本でございます。

本日は皆様ご参加頂きましてありがとうございます。

昨年、「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」というこれまでにない画期的な法律が、古屋大臣をはじめとする国会議員の方々のご尽力により成立いたしました。

これを受けまして、この法律の趣旨の実現のため、消防だけでなく幅広く各界の皆さんにご参加頂いて、我が国初めての国民運動的な大会を開催することとしました。

それが、本日の大会であります。

各界を代表する発起人の皆さまをはじめ、本当に多くの方々のご協力を頂いてやっと本日開催にこぎつけることができました。

ご協力頂いた皆様に心から深くお礼申し上げます。

また、本日は、ご多忙の中を安倍内閣総理大臣、新藤総務大臣、古屋防災担当大臣にご臨席を賜りました。初めて開催したこの大会をこうしてお認め頂いたのは、感激の極みであります。これ以上のよろこびはございません。

広島の大水害など大変な災害が続いております。今や日本中いつでもどこでも何でもある位の覚悟をもっていなければなりません。そのような中で、地域防災力の強化をめざす本日の大会の意義は益々大きくなっていると思います。

本日の大会をどんなことがあっても命を守ることができる地域防災力強化への新たな第一歩にしなければなりません。

本日は、全国各地のさまざまな活動事例の発表など大変欲張った内容にしておりますので、時間的にゆとりがありませんが、お許し頂きご協力頂きますようお願いいたします。

大会の趣旨につきましては、発起人代表の福地様からお話し頂きますので、私は、ただひたすらお礼を申しあげてごあいさつとさせていただきます。



#### ○ 発起人代表あいさつ（元日本放送協会 会長 福地茂雄）

皆様こんにちは、ご紹介頂きました福地でございます。

発起人代表といたしまして、安倍内閣総理大臣、新藤大臣、古屋大臣をはじめこれだけ多数の皆様にご臨席頂きましたことを心から感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

私からは発起人といたしまして本日の趣旨についてご説明申し上げます。

皆様ご承知のように3年前の東日本大震災では2万人もの方々がお亡くなりになりました。その後もこれまでにない季節はずれの台風、物凄い集中豪雨、さらに大雪、竜巻などがあり、先日は広島で土砂災害による大惨事がございました。また、近い将来に大きな地震が発生する恐れが心配されています。

このような災害や事故のおり、東日本大震災の時のような悲しい思いをせず、みんなが命を守るには、どうすればいいのでしょうか。それが今日の大会のテーマでございます。

災害が起きた時、消防署、消防団、自衛隊、警察など専門の方たちは、一生懸命やって下さいますが、これまでの経験においてそれだけでは人数も足りず対応し切れない状況でございます。特に地震などが発生した直後は、地元の皆さんが力を合わせて立ち向かうほかはございません。

そのためには、どうすべきでしょうか。住民ひとりひとり、そして、あらゆる企業や各団体の皆さんが、日頃から災害を想定して、一緒に勉強したり、避難訓練をしておくことが必要でございます。こういうことを進めるにあたって消防団の役割は誠に大きいと思います。

今日、この会の中で全国各地の様々な活動事例が発表されます。ご参考にして頂きたいと思っております。

本日は各界の皆様にお集まり頂き、このような盛大な会になりました。

私たちは、この大会が今後の地域防災の国民運動の第一歩になり各地で同様の会が開催されますことを願っております。

本日は、ご参加頂きまして誠にありがとうございました。

【大会発起人】（五十音順）

・石原信雄氏（元内閣官房副長官）





- ・陣内孝雄氏（全国防災協会会長）
- ・清家 篤氏（日本私立大学団体連合会会長、慶應義塾長）
- ・高井康行氏（全国社会福祉協議会副会長）
- ・西元徹也氏（元防衛庁統合幕僚会議議長）
- ・野田 健氏（元内閣危機管理監）
- ・福地茂雄氏（元日本放送協会会長：発起人代表）
- ・室崎益輝氏（消防審議会会長）
- ・横倉義武氏（日本医師会会長）

#### ○ ご来賓あいさつ（内閣総理大臣 安倍晋三）

はじめに、広島市を始め、今回の豪雨によって亡くなられた方々の御冥福をお祈りするとともに、被災された方々に、心からお見舞いを申し上げたいと思います。

広島市においては、今この時も、多数の消防団の方々が、大量の土砂、流木、倒壊家屋という極めて困難な状況の中、昼夜を分かたず、救命救助活動に御尽力をいただいておりますことに、心から敬意と感謝を表したいと思います。また、消防職員が救命救助活動中に、殉職されたことは、痛恨の極みであり、つつしんでお悔やみ申し上げます。

消防団は、江戸時代の町人による火消組織に発し、明治以降120年余にわたって、地域住民の守りとして、地域と共に歩んできました。これまで多くの災害現場で消防団の皆さんが自らの危険も顧みず、第一線で住民の避難誘導や、捜索活動などで活躍してきたことは、我々の記憶に深く刻まれています。

近年は、団員の減少など、多くの課題を抱えていますが、一方で女性団員の数が、年々増加し、その活躍も大きく注目されています。

さらに、我が国の将来を担う子供たちの、防災に対する関心も高まっており、大変心強く思います。まさに地域の防災は、地域が総力を挙げて、みんなが主役となって取り組んでいくべき課題です。

このような中、各界、各層の方々に発起人になっていただき、消防団を中核とした地域防災力充実強化大会が盛大に開催されますことは、誠に時宜を得たもので、大変意義深いものであります。

政府としても、東日本大震災等の大災害を経験し、首都直下地震や南海トラフ巨大地震等の発生が予測されている我が国において、地域防災体制の充実・強化は、喫緊の課題と認識しており、その中核となる消防団を支援し、消防団への加入促進、団員の処遇改善や、装備の充実が、図られるよう全力で取り組んでまいります。

終わりに、本大会の成功と、御列席の皆様を始め、関係者の方々の今後益々の御活躍を祈念いたしまして、私のお祝いの言葉といたします。



#### ○ ご来賓あいさつ（総務大臣 新藤義孝）

ご紹介を頂戴いたしました総務大臣の新藤義孝であります。

本日は、消防団を中核とした地域防災力充実強化大会、はじめてのこころみであります。全国からたくさんの皆さんがお出かけを頂いて、盛大に開催できますことを関係者の一人としてお慶びを申し上げ、そして、御礼を申し上げたいとこのように思います。

まず、本日、ご参集の方々はそれぞれの地域において、本当に献身的に地域のために、そして、人様のためにご尽力を頂い



ております。そのことにまず、敬意と感謝を申し上げたいと思います。また、今も続いておりますけれども、この広島の高雨災害、私も現地に行っていました。本当に悲惨な、この平和な世の中で数秒の差で数メートルの差で生死が分かれました。そして、あっという間に幸せな生活が壊れてしまった。このなんと悲惨なことか。亡くなられた方々にご冥福をお祈りし、そして遺族の方にお悔やみを申し上げたいと思います。

たくさんの方がまだ避難をされています。その方々にお見舞いを申し上げ、我々は一刻も早い復旧とそして、財政的支援を含めるあらゆる措置を政府としてとっていかなくてはいけない、このように心に決めている訳であります。

また、本当に考えただけでも悲しいことでありますけれども、私たちの仲間である消防の広島市消防局安佐北消防署の政岡消防司令補が53歳でございましたけれども殉職をされました。小さな子供を守るために命を懸けて頑張って頂いた、その方のことを考えますと、ぜひ皆さんも含めて、とにかくまず自分の身の安全を図って、そのうえで人様のためにこの安全を守らなければいけない訳であります。私たちは更に、この消防力を強化して、二度とこのようなことのないように、そして、悲しい犠牲となりました政岡さんのためにも、私たちはしっかりと活動していかなくてはならないとこのように改めて誓う次第でございます。

私たちの国は、地勢的についてアジアのモンスーン地帯にあって、豪雨、台風、様々な災害に見舞われる、そういう国に生きている訳でございます。地震も多発いたします。ですから、こういう気候変動を伴ういろいろな事象は、これからも益々拡大するに違いない。そして、異常気象ではなくて、それが通常になりつつあると、その中でどうやってこの国土の安全と国民の安心を守っていくか、消防力の充実強化というものは、最大の国家的、そして喫緊の課題であると、このように思っている訳でございます。私はこの危機管理の要諦は、非常時の安心は通常時の便利である。普段使っているものでなければ非常時では使えないんです。それから、訓練でできないことは本番でできません。ですから、訓練を充実させ装備を強化して、そのうえで普段の準備をどのように日常生活に中に取り込んでいくか、それが非常時の安心につながると、このように思っている訳でございます。地域のコミュニティーを維持してその人と人のつながりの中から非常時のいろいろな救出が行われる。このことを私たちはきちっとおさえておかなければいけません。

そうしますと、地域の中で活動していただいている消防団の存在は益々大きくなる。消防力というものは地域の中に入って、日頃のコミュニティーの維持が、それが非常時の安心だということだと考えます。

是非、このことをお互いに更に認識をしていきたいと、このように思っております。

本年は、消防団がこの国に組織されて120年目でございます。昨年の秋には、天皇皇后両陛下に御出ましを頂いて、大きな消防の大会も開催することができました。

私たちとすれば、こういった契機に消防団の充実強化、特に、この減少しつつある団員をなんとかこの減少傾向に歯止めをかけて、少しでも増やして、そして地域の安全というものを高めていきたいとこのように思っておりますし、皆様方にも大変なご苦勞を頂いております。是非、共に力を合わせて、明治以来の120年のDNAは国と共にある。地域と共にある。その私たちの精神をしっかり受け継いで、そしてまた次に引き渡すために、皆さんと共にこの消防力を充実強化していこうではありませんか。それが今日の大会の趣旨だと思っております。

どうか、これからまたいろいろな状況が起こると思います。健康に留意して、事故等に注意して頂いて、皆様方が素晴らしい活躍をして頂くことをお願い申し上げましてごあいさつに代えさせていただきます。

ありがとうございました。

## ○ ご来賓あいさつ（内閣府特命担当大臣（防災） 古屋圭司）

ご紹介を頂きました防災担当大臣の古屋圭司でございます。また、同時に私は消防議員連盟の会長を務めておまして、両方の立場でご挨拶をさせて頂きたいと思っております。

昨年末に、「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法案」これが成立しまして、

それを記念しての大会ということでございます。全国各地から消防関係者をご参集いただきました、ご苦労さまでございます。

今、新藤大臣からもお話いただきましたように8月20日未明から、広島で未曾有の土砂災害が発生いたしまして、72名の方がお亡くなりになりました。まだ、2名の方が行方不明でございます。私も災害対策基本法24条に基づき、災害対策本部長として、現地にも災害対策本部をつかって、連日のように連携をして取り組みをいたしております。その中であって、やはり、消防団の方あるいは消防関係者の皆様の献身的な捜索活動等々、ほんとに頭の下がる思いでいっぱいでございます。



今回のこの災害、あるいは一連の災害の中での反省、教訓もいくつもございます。例えば、避難勧告・避難指示というものがございます。これは早めに出すほうがいいわけですが、なかなか首長さんがその決断をしづらい環境にあるというのも事実であります。ですから、私は昨年の大島のあの悲劇の時に、首長さんあるいは関係者の皆さんに、空振りを恐れずに速やかな避難勧告指示を出してください。少なくとも土砂災害特別警報がでたら、その時点で出して頂く、こういったこともマニュアルで流して頂いております。空振りになれば、幸いだったと思っていただく、これが首長さんだけではなくて、地域に住む住民の皆さんもそういう意識を持って頂くことが大切であります。そんな取り組みを是非して頂くと思います。

そして、何と言っても普段から消防の皆様は、地域の安心安全のために、住民の皆様への啓蒙活動を初め、献身的なご努力をされておられます。私は今、国土強靱化の初代の大臣を仰せつかっておりますが、過日6月3日に国土強靱化基本計画を閣議決定させていただきました。この国土強靱化基本計画は40以上ある国の基本計画の最上位計画でございまして、これに伴ってそれぞれの基本計画も変更されていくことになるわけですが、この基本計画の中でもやはり地域の消防、この大切さというものをしっかり謳わせて頂いております。人の命を絶対守る、致命傷を負わせない、被害をできるだけ最小限に食い止める、そして、速やかに復旧をさせる、そのためにソフト、ハード両面の対策を、優先順位をつけて取り組んでいくということである、これはまさしく防災と国土強靱化両輪を成すものである。新藤大臣からも指摘があった、平時にも活用できて有事の際にはその機能を発揮するということが大切であります。是非、そういった意味においても、消防団の皆様の日頃の活動・訓練というのは、大いに地域の皆様の命を守ってもらうために大変な重要な役割を果たします。

日本の消防団は世界一だと思います。7年ほど前に、消防団の世界大会というものがございました。この時に世界各国から“我が国の消防こそ世界一だ”と思う仲間がみんな集まりまして、客観的に見て日本の消防団は、私は世界一だと思いました。全ての市町村に消防団がある、士気が高いこと、そしてしっかり専門的知識を持っていること等々含めて世界一であります。私はこの消防団を更に充実させていくことが極めて大切だと思います。

一方、これからいろんな災害が起きる可能性があります。首都直下地震だけではなくて、南海トラフ地震も9県が対象となっている。こういう時に消防団の皆様のご役割は極めて大切です。だからこそ例えば、消防と防災のノウハウを合わせ持つ人たち、そのためには例えば、消防団の役員の皆様方、分団長とか班長さんとかこういった方々には例えば、防災士の資格を取っていただく。これも地域の防災だけではなくて消防だけではなくて防災のリーダーになって頂きます。

そんな取り組みも是非して頂くいなということを、私は防災担当大臣あるいは消防議員連盟会長として関係者の皆様をお願いを申し上げたいというふうに思います。

この法案が出来上がって、いよいよ欠くことのできない代替性のない存在であるのが消防団であります。

是非ともこの素晴らしい世界一の消防団、伝統を積み上げてきた消防団が更に充実をして、そして日本の誇りとして、地域の誇りとして活躍して頂くことを心から期待をいたしまして、防災担当大臣あるいは消防議員連盟会長としてのご挨拶に代えさせて頂きたいと思っております。

本日は誠にありがとうございます。

ありがとうございました。



## ○ 事例発表

全国各地の様々な活動事例の発表が行われました。

- ① 女性防火クラブによる災害時初動体制の整備など地域防災力強化として、福岡県福岡市玄界島女性自衛消防隊防火クラブ隊長 津田郁代さんから報告がありました。
- ② 震度6強を想定した総合防災訓練として、東京都墨田区総務部危機管理担当防災課課長 須藤浩司さんが発表し、本所消防団城所隆昭団長、向島消防団 沖山 仁団長が登壇されました。  
※ 消防審議会 室崎益輝会長、東関部屋 振分親方からご感想をいただきました。



福岡市



墨田区



室崎益輝氏



振分親方

- ③ 消防団と医療関係機関との連携として、茨城県日立市消防本部 寺門泰弘消防長が発表されました。
- ④ 消防団と福祉施設との連携として福島県桑折町消防団 半澤 博団長が発表されました。  
※ 日本医師会 横倉義武会長、全国社会福祉協議会 高井康行副会長からご感想をいただきました。



日立市



桑折町



横倉義武氏



高井康行氏

- ⑤ 消防団など地域が協力する水防活動として、茨城県龍ヶ崎市消防団 大野正雄副団長が発表されました。  
※ 全国防災協会 陣内孝雄会長からご意見をいただきました。



龍ヶ崎市



陣内孝雄氏

- ⑥ 消防団が中心の津波防災対策として、高知県黒潮町消防団 杉本正守団長が発表されました。  
 ※ 元防衛庁統合幕僚会議議長 西元徹也様、元内閣危機管理監 野田 健様からご意見をいただきました。



黒潮町



西元徹也氏



野田健氏

- ⑦ 消防団を中核とした地域防災力の充実強化として、愛媛県松山市 野志克仁市長が発表されました。  
 ※ 元内閣官房副長官 石原信雄様からご意見をいただきました。



松山市



石原信雄氏

- ⑧ 女性消防団員による防火防災のPR劇として、三重県津市消防団による「火災無子の防火・防災教室」を上演していただきました。  
 ※ 元日本放送協会会長 福地茂雄様よりご感想をいただきました。



津市



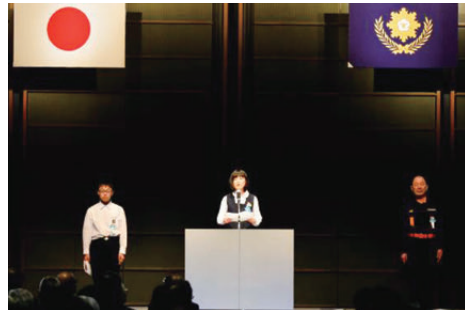
福地茂雄氏

- ⑨ 少年消防クラブの防火防災活動として、宮城県気仙沼市立階上中学校 小野寺丈さん、田代紗希さんが防災学習を発表し、気仙沼市消防団 武山文英団長が登壇されました。

埼玉県三郷市少年消防クラブ 大野宣輝さん、東京都千代田区麹町消防少年団 井上尚美さん、林 瑛里さんが発表されました。

三郷市少年消防クラブ、麹町消防少年団の皆さんによる、軽可搬ポンプ操法披露が行われました。

※ プロレスラーの蝶野正洋様からご感想をいただきました。



階上中学校



三郷市少年消防クラブ



麹町消防少年団



軽可搬ポンプ操法披露



蝶野正洋氏

- ⑩ 女性消防団員による応急手当体操として、奈良県奈良市消防団広報指導分団による「やまとなでしこ体操」を行いました。





## ○ 総括コメント（日本放送協会解説主幹 山崎 登）

今、ご紹介を頂きましたNHKで自然災害と防災という分野を担当する解説員をしております山崎と申します。

全部見せて頂いて圧倒されました。中身の濃さと、それからバリエーションの豊富さで。

私は30年くらい消防や消防団の取材を続けてきましたけれども、ちょっと取材が足りなかったなということを痛感しました。

私は30年くらいほんとに全国各地の災害があったり、それから大きな火事があったりすると、現場へ行って取材をして、消防の皆さん、それから被災者の皆さん、あるいは消防団の皆さんにお話を伺ってきましたけれども、消防団はですね、それぞれの現場で、本当に献身的に活動していらっしゃるのを目の前で見てきました。

東日本大震災の時にはですね、災害の直後から捜索活動にあたっていて、朝早くから夜遅くまで活動していて、夜遅く避難所に帰ってくる消防団員の皆さんを、地元の人たちが遠くから手を合わせて拝んでいるのを見ましたし、今回の広島土砂災害の現場でも、女性消防団員の方が、避難所をなるべく快適にできないかという取り組みをしているというニュースを聞きました。

今日の各地の皆さんの活動ひとつひとつについてですね、コメントする時間はありませんけれども、全部を見せて頂いて、改めて消防団というのが地域の取り組みに欠かせない存在だなということはよくわかりました。

私の手元に、去年、全国の消防団がどんな活動をしたのか、どんな出動をしたのかというリストを持ってきました。

消防団というと多くの人が山火事でしょ？あるいは火事だよねって言いますが、救急救助の現場にも出ています。それから、風水害の現場で土のうを積んでいる姿も見かけました。それから、各地の防災訓練にもでておられますし、小中学校やそれから幼稚園とかあるいはいろんな施設で応急手当の指導をしたり、火災予防の指導もしておられます。それから、警備もしています。そういわれてみると大きなお祭り、大きな地域の催しには消防団が出ていますよね。それから、捜索活動もしている。最近は各地で高齢の方が行方不明なったりする事故がよくあります。そういう時の地域の捜索活動をしている。災害の時に現場に行く交通整理もしている姿を見かけます。

こういうのをみると今日の大会に経済団体、教育団体、芸術団体、スポーツ団体、地方自治、医療、福祉、いろんな団体の皆さんがお集まりになったというのはよくわかります。つまり、消防団というのは、地域の中で地域が何かまとまって活動しようというときには、もう欠かせない存在になっているんです。

いろんなところで話を伺うと、少子高齢化が進んで、それから産業構造が変わりました。だから、昔、ものすごく活動していた、例えば、青年団とか、婦人会だとかそれから若手の商店の人たちの集まりとか、そういうものがどンドンどンドン、活動の基盤そのものが失われてきて、活動ができにくい状況になっているんだと。

だから、地域で何か動員しようと思ったら、消防団に頼るしかないんだという声をよく聞きます。そういう観点から取材してみると地域の防災力、地域の防災力って言いますが、防災だけじゃないんです。地域の防災訓練に多くの人が集まるところは地域のお祭りも賑やかです。イベントにも人が出ます。そういうところを調べてみると路上犯罪も少ないんです。放火も少ないんです。つまり、地域の安全を地域で守るっていうのは、多分、私たちの住民自治の原点で、その重大な役割を消防団が今それぞれの地域で担ってくださっているということだろうと私は思っています。

これから、脅すわけではありませんが、災害の多い時代に入ります。それは、私がそれぞれの分野の専門家に聞いて、皆さん口をそろえておっしゃいますから、これは間違いのない。なぜか、東日本大震災が起きて以降、東日本で地震の回数はグンと増えました。その影響でもしかした



ら首都直下型地震が起きるかもしれない。そんな心配も出ています。南海トラフの近辺では、これから今世紀の前半には、東南海地震、南海地震といった巨大地震が起こる恐れがある。その巨大地震が起こる前には、もう一回り小さな直下型地震も西日本では起こるのではないかとこのように心配されています。それから、先進国のなかで、梅雨が来て、台風が来て、秋雨が来て、更に活火山がこんなにある国なんてないんです。日本という国で生きる以上、災害とか防災を密接なものとして考えていく以外に手はないんです。

そのためにもっとも大事な取り組みの一つが、地域の防災の力を上げていくことだということとは皆わかっています。だからやろうじゃないか。掛け声だけはかけます。問題は、誰がやるかなんです。掛け声をかけていけば自然発生的に地域の防災力が高まるんだったらそんな簡単なことはない。でもね、やっぱり地域でもってその取り組みを進めるためには核になる人がいるし、地域を引っ張っていかなくちゃいけない人がいるんです。

一体これは誰がなるのか、東南海地震で被害が心配される西日本の四つの県に地域で防災の取り組みをするときに、中心になってもらいたい人は、中心になってもらいたい専門家集団は何だと思えますかって聞いたアンケートがあります。一番は消防団ですよ。この国がこれから災害の多い時代になっていくときに、地域の取り組みを高めなくちゃいけないときに、消防団に対する期待はものすごく大きいんだということだということに私は理解しています。

今日の大会で皆さんの発表を見せて頂いて、それから皆さんのお話を伺って、その取り組みをこれから皆で進めるために、どうやって力を合わせていけばいいのか、ということの共通理解で、今日はいろんな組織とか、いろんな団体の皆さんがお集まりですね。

東日本大震災は様々な教訓を残しました。でも、一番大きな教訓は何かって言うと、私たちが暮らしていくために世の中にはたくさんの課題があります。政治の課題、経済の課題、環境の課題、国際問題の課題、外交の課題、様々にあるけれども、そのそれぞれに立ち向かっていくための最低の条件が、安心して安全な社会であるってことですよ。計画停電が行われるって時、あるいはスーパーから食料品の姿が消えた時に、皆でこの国の民主主義の成熟度を高めるために議論しようっていう機運にならなかったですよ。安心と安全な社会を創っていくためにどうするかっていうことを多分、東日本大震災は、最大の教訓として私たちに突き付けたというふうに思います。これから災害の多い時代に、地域の防災力をどうしても高めていかなくては行けない時代に、消防団に対する期待は大きいし、多分その取り組みを私たちが応援することで、そういう社会を創っていくのではないかとこのことを今日は感じさせてもらったというふうに思います。

私は、30年くらい防災と災害の取材を続けてきましたが、これからも取材者の観点から皆さんの取り組みを応援して取材していきたいとそういうふうに思います。

どうもありがとうございました。ご苦労さまでした。

## ○大会申し合わせ

最後に、会場にお越しの3人の皆さんから貴重なご意見を頂戴し、大会最後の締めくくりとして大会申し合わせを朗読し、満場一致のご賛同を頂き盛会のうちに終了しました。

### 大会申し合わせ

私たちは、東日本大震災その他の災害・事故を教訓として、これからどのような事態があっても被害を最小限にとどめ、生命は必ず守ることとするため、ひとりひとりが自らを守ると同時に、みんながそれぞれの力を発揮して協力することとします。

そのため、日頃からそれぞれの地域でいろいろな災害等を想定し、その時の対応をみんなで相談し、避難や緊急の救命措置など必要な体験学習をします。

「消防団を中核とした地域防災力充実強化大会」に当たり、このことを申し合わせます。

平成26年8月29日

## ○ 防災学習・災害活動車展示

地上広場では、消防団を中核とした地域の総合的な防災力の充実強化を図ることを目的に、平時においては地域住民や事業所等に対する防災学習や防災指導を行い、災害時には緊急車両として消防団員及び消火・救助資機材の搬送活動等に転用可能な、「消防団防災学習・災害活動車両」を開発・展示し、多くの方にご鑑賞していただきました。



## ○ おわりに

大変多くの方々にご協力頂き、おかげさまで我が国初の地域防災力充実強化大会は無事終了しました。

消防関係者はもとより、本当に幅広く各界の方々にご参加頂き、会場は立見の方もおられるという満員で、最後まで全国各地の活動事例をご覧頂き、大会申し合わせも満場一致決定されました。

そして会場には、新藤総務大臣、古屋防災担当大臣のほか、急遽、安倍内閣総理大臣にもご出席頂き、それぞれ大変力強い激励のお言葉を頂きました。感激一杯です。新しい元気が湧いてきます。

会場内の意見交換の時、広島市の方からご発言もありましたが、大会直前、広島市で大規模な土砂災害がございました。多数の方々がお亡くなりになり、胸が痛みます。

大会でも黙祷を捧げましたが、その様子をうかがうにつけ、これは決して他人事ではなく、まさに地域の総力を結集した地域防災力強化の必要性をあらためて痛感しました。この大会を地域防災力強化への国民的な動きの新たなスタートにしなければならないとあらためて強く思います。

大会開催にご協力頂きました皆様、本当にありがとうございました。



## 後 援 団 体

分 野	団 体 名
国	内閣府 警察庁 総務省消防庁 文部科学省 厚生労働省 農林水産省 経済産業省 国土交通省 防衛省
経済・生活など	一般社団法人日本経済団体連合会 公益社団法人経済同友会 日本商工会議所 全国中小企業団体中央会 公益社団法人日本青年会議所 日本証券業協会 一般社団法人日本損害保険協会 一般社団法人生命保険協会 全国農業協同組合中央会 日本小売業協会 日本百貨店協会 石油連盟 一般社団法人日本鉄鋼連盟 N H K 一般社団法人日本新聞協会 一般社団法人日本民間放送連盟 電気事業連合会 一般社団法人電気通信事業者協会 全国クリーニング生活衛生同業組合連合会 全国理容生活衛生同業組合連合会 日本労働組合総連合会 一般社団法人全国消費者団体連絡会 主婦連合会 全国地域婦人団体連絡協議会 一般財団法人道路管理センター 四国旅客鉄道株式会社 公益社団法人全日本トラック協会 一般社団法人日本ホテル協会 一般社団法人全国旅行業協会
医療・福祉	公益社団法人日本医師会 公益社団法人日本歯科医師会 公益社団法人日本薬剤師会 公益社団法人日本看護協会 日本赤十字社 公益社団法人全国自治体病院協議会

分 野	団 体 名
	社会福祉法人全国社会福祉協議会 社会福祉法人中央共同募金会 公益財団法人全国老人クラブ連合会 社会福祉法人日本身体障害者団体連合会
教育・芸術・スポーツ	日本私立大学団体連合会 公益社団法人日本芸能実演家団体協議会 公益財団法人日本体育協会 公益社団法人全国野球振興会
地方自治	全国知事会 全国市長会 全国町村会 全国都道府県議会議長会 全国市議会議長会 全国町村議会議長会 一般財団法人自治総合センター 一般財団法人地方財務協会 公益社団法人全国市有物件災害共済会 一般財団法人全国市町村振興協会 一般財団法人自治体衛星通信機構 一般財団法人地方自治研究機構
消防防災	全国消防長会 日本消防検定協会 危険物保安技術協会 消防団員等公務災害補償等共済基金 公益社団法人全国防災協会 一般財団法人救急振興財団 一般財団法人消防科学総合センター 一般財団法人消防試験研究センター 一般財団法人全国危険物安全協会 一般社団法人全国消防機器協会 一般財団法人日本消防設備安全センター 一般財団法人日本防火・防災協会 一般財団法人日本防火・危機管理促進協会 公益財団法人日本防災協会 一般社団法人日本火災報知機工業会 一般社団法人日本消火装置工業会 一般社団法人日本消防ポンプ協会 一般社団法人日本消防放水器具工業会 一般社団法人全国避難設備工業会 一般社団法人日本消防ホース工業会 一般社団法人全国消防機器販売業協会 一般社団法人日本消防服装・装備協会 一般社団法人日本消防標識工業会 特定非営利活動法人救急ヘリ病院ネットワーク

(順不同)

## 参 加 団 体

分 野	団 体 名	分 野	団 体 名	
経済・生活 など	第一生命保険株式会社		公益財団法人日本陸上競技連盟	
	一般財団法人日本アマチュア無線振興協会		公益財団法人日本テニス協会	
	一般社団法人日本ショッピングセンター協会		公益財団法人日本バレーボール協会	
	一般社団法人東京都産業廃棄物協会		公益財団法人日本相撲連盟	
	一般社団法人		公益社団法人日本馬術連盟	
	全国上下水道コンサルタント協会		公益財団法人全日本柔道連盟	
	一般財団法人情報通信振興会		公益社団法人日本近代五種協会	
	一般財団法人日本データ通信協会		公益財団法人日本ラグビーフットボール協会	
	一般社団法人		公益社団法人日本山岳協会	
	特定ラジオマイク運用調整機構		公益財団法人全日本空手道連盟	
	一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟		公益財団法人日本ゲートボール連合	
	公益財団法人日本環境協会		公益社団法人日本カーリング協会	
	一般社団法人全国道路標識・標示業協会		公益社団法人日本パワーリフティング協会	
	日本貨物運送協同組合連合会		公益社団法人日本トライアスロン連合	
	全国仮設安全事業協同組合		一般財団法人日本バウンドテニス協会	
	一般社団法人日本中小型造船工業会		一般社団法人日本バイアスロン連盟	
	一般財団法人日本航空協会		公益社団法人日本ダンススポーツ連盟	
	一般社団法人日本旅行業協会		地方自治	公益財団法人 明るい選挙推進協会
	一般社団法人日本オートキャンプ協会			全国過疎地域自立促進連盟
	公益財団法人日本修学旅行協会			公益財団法人全国市町村研修財団
一般社団法人日本民営鉄道協会	一般財団法人地域活性化センター			
医療・福祉	公益社団法人日本介護福祉士会	一般財団法人地域創造		
	一般社団法人日本病院会	一般財団法人地方公務員安全衛生推進協会		
	公益社団法人日本産婦人科医会	一般社団法人地方公務員共済組合協議会		
	公益社団法人日本助産師会	地方公務員制度研究会		
	一般社団法人日本臨床衛生検査技師会	一般財団法人地域社会ライフプラン協会		
	日本医療福祉生活協同組合連合会	一般財団法人地方債協会		
	公益社団法人日本認知症グループホーム協会	都道府県選挙管理委員会連合会		
	一般社団法人全国介護者支援協議会	全国自治会連合会		
日本ホームヘルパー協会	消防防災	公益社団法人隊友会		
教育・芸術・スポーツ		一般社団法人日本書籍出版協会	一般社団法人全国警友会連合会	
		日本青年団協議会	櫻護謄株式会社	
		公益財団法人ボーイスカウト日本連盟	帝国繊維株式会社	
		公益財団法人あしたの日本を創る協会	トーハツ株式会社	
		公益財団法人日本キリスト教婦人矯風会	ニッタン株式会社	
		一般社団法人公立大学協会	能美防災株式会社	
		全国公立短期大学協会	ホーチキ株式会社	
		日本私立短期大学協会	株式会社モリタホールディングス	
		全日本私立幼稚園連合会	ヤマトプロテック株式会社	
	公益社団法人全国私立保育園連盟			

(順不同)

# 豪雨災害状況

平成26年7月から9月までに発生した大雨等は、各地に甚大な被害を及ぼしました。

特に広島市では大規模な土砂災害が発生し、多数の住民の方々がお亡くなりになりました。お亡くなりになった方々へ謹んでご冥福をお祈りいたしますとともに、被災なされた皆様に心からお見舞い申し上げます。

(公財)日本消防協会では、現場活動に従事する消防団員を支援するため、災害対策支援金要綱及び非常用食料交付要綱に基づき、災害対策支援金または非常用食料を交付しました。

## 1 7月9日 長野県南木曾町 台風第8号及び梅雨前線の影響に伴う大雨等による被害



南木曾町読書地区 梨子沢の状況



南木曾町読書地区 土石流の状況

## 2 7月9日 山形県南陽市 台風第8号及び梅雨前線の影響に伴う大雨等による被害



南陽市赤湯金沢地区 右奥が南陽市街地



金山地区 白山在家橋崩落

## 3 8月1日 徳島県 台風第12号及び台風11号に伴う大雨等による被害



阿南市深瀬町 那賀川の氾濫状況



阿南市深瀬町 消防団詰所浸水状況





阿南市加茂町浸水状況



阿南市加茂町 加茂谷中学校 1階の浸水状況

4 8月1日 高知県高岡郡日高村 台風第12号及び台風11号に伴う大雨等による被害



沖名田福、長崎地区県道、村道、水田冠水



沖名大川内、馬越地区県道、村道、水田冠水



下分鍛冶屋地区 村道、田畑冠水



岩目地区 住宅下法面崩落

5 8月17日 京都府福知山市 8月15日からの大雨等による被害



大江支所周辺



南小谷ヶ丘周辺

6 8月16日 兵庫県丹波市 8月16日からの大雨等による被害



丹波市市島町徳尾地内（谷上）土砂災害の状況



丹波市市島町徳尾地内（下鴨阪）土砂災害の状況

7 8月20日 広島市 8月19日からの大雨による広島県における被害



八木三丁目・県営緑が丘住宅付



安佐南区



八木九丁目





八木三丁目



八木三丁目



緑井八丁目



# ラジオ番組「おはよう！ニッポン全国消防団」 坂本森男消防庁長官 出演

放送日：平成26年9月13日、14日

**山本アナ**：「おはよう！ニッポン全国消防団」、今日は消防庁の坂本森男長官をお迎えしてお送りいたします。長官よろしく願いします。おはようございます。

**坂本長官**：おはようございます。消防庁長官の坂本です。よろしく願いいたします。

**山本アナ**：お願いいたします。まずはこの7月に消防庁の長官に就任ということでおめでとうございます。具体的に消防庁のお仕事とはどういったことをされているのでしょうか？

**坂本長官**：消防庁は中央省庁の役所としては小ぶりなんですけれども、実は全国には16万人の消防の職員、そして86万人の消防団員の方々がいらっしゃいます。その方々の消防防災活動がしっかりできるように制度の企画立案や運用、それから消防車や救急車などの装備・資機材の助成などを行っております。また、大規模な災害が発生した際には、情報収集して総理官邸に報告しましたり緊急消防援助隊の派遣といった広域応援体制をオペレーションするなどの災害対応に当たります。

**山本アナ**：なるほど。消防の中核と言ってもいい機関ということになりますよね。さて、消防庁の長官になられる前にはどのようなお仕事をされていたんですか？

**坂本長官**：私は今まで、いろいろと地方行政関係の職務に携わってまいりました。特に消防関係では、消防庁の予防課長として火災予防の基準作りなどに携わったほか、千葉県の副知事を4年間勤めておりまして、その時、東日本大震災の対応にも携わってまいりました。

**山本アナ**：なるほど、そうだったんですね。長官に就任されておおよそ2ヶ月ですが、長官ご自身の決意をお聞かせいただけますか？

**坂本長官**：はい。最近では、広島市で大規模な土砂災害が発生しました。多くの尊い命が犠牲となっております。その際にも緊急消防援助隊が出動し、隣県の方々の消防隊員が、懸命な救助及び検索活動を行いました。また、地元の消防職員、消防団員の方々にも数百名規模で現場活動に当たっていただきました。消防庁といたしましては、近年頻発する大規模な災害に備えて、一人でも多くの命が救えるよう、さらに万全の体制を構築してまいりたいと、こう思っております。



**山本アナ**：はい。さて、消防団に関する取り組みについてはいかがでしょうか？

**坂本長官**：はい。消防団に関して、非常に国会議員の方々も関心を持っていただきまして、昨年12月に議員立法によって「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」こういう法律が全会一致で成立しました。これを踏まえまして、消防団員の方々に、その処遇を改善するために、今年の4月から退職報償金を全階級一律5万円引き上げさせていただきました。また、消防庁が定める基準を改正し、消防団員の安全確保のための装備等の充実、教育訓練の充実を図っております。救助資機材を搭載しました車両を消防団に無償で貸し付けたり、今年6月には消防団員が相当数増加した消防団等には新藤総務大臣から感謝状を贈呈させていただきました。

**山本アナ**：なるほど。それから、消防団をアピールする大きな行事もありましたよね？

**坂本長官**：そうですね。去る8月29日には、日本消防協会主催により各界、各層の参加を得まして、消防団を中核とした地域防災力充実強化大会が盛大に開催されました。これは、各地域の取り組みを事例発表する大会でございましたけれども、安倍内閣総理大臣も出席されまして消防団員の皆様に対して、深い感謝と敬意が表されました。私としましても、消防団の入団促進や処遇の改善など、消防団を中核とした地域の防災力向上のため、全力を尽くして職務を遂行する決意を新たにいたしましたところでございます。

**山本アナ**：はい。分かりました。全国の消防団員の皆さん、そして、ご家族の方々へここで長官からもメッセージをいただけますか？

**坂本長官**：はい、分かりました。全国の消防団員も皆様が災害時には「自分達の町は自分達で守る。」という使命感のもと、一致団結してご尽力いただいていることに対しまして改めて敬意と感謝を申し上げます。また、消防団活動にご理解いただき消防団員を支えているご家族の皆様方にも厚く御礼申し上げます。地域住民の生命・身体及び財産は消防団が中心となって保護することが期待されているところでございます。今後、南海トラフ地震や首都直下地震などの大規模地震の発生が危惧される中、特に大規模震災時における消防団への期待は極めて大きく、また消防団員は地域防災の中核でもございます。自らの命、家族の命を大切に、一人でも多くの住民の命を守るため力を合わせて頑張ってくださいと考えております。

**山本アナ**：はい。そして最後になりますが、今ラジオを聴いて下さっている皆様にも一言メッセージを頂戴できますでしょうか？

**坂本長官**：はい。ラジオをお聴きになっている皆さん、消防団に入っている仲間は86万人です。その内、女性の消防団員は2万人を超え年々増加いたしております。消防団に入っていらっしゃらない方にも消防団に興味関心を持っていただき、さらに入団されたいと思う方がいらっしゃったら本当に幸いです。皆さん、是非、地域の消防団への入団、よろしくお願い申し上げます。

**山本アナ**：はい、分かりました。「おはよう！ニッポン全国消防団」、今日は消防庁の坂本森男長官をお迎えしてお送りいたしました。長官、どうもありがとうございました。

**坂本長官**：ありがとうございました。



特別表彰「まとい」を受章して

## 地域に根付いた防災組織を目指して

新居浜市消防団 団長 高橋 眞次



### はじめに

平成26年2月28日に開催された「第66回日本消防協会定例表彰式」におきまして、消防団受章の最高名誉である特別表彰「まとい」を拝受いたしました。全国約2300の消防団の中から、新居浜市消防団がこのような栄誉ある表彰を受章できたことは、この上ない喜びであり誇りとすところでもあります。これもひとえに、新居浜市消防団の礎を築いてこられた諸先輩方をはじめ、日々消防活動に邁進される団員の皆様とご家族のご尽力の賜物と深く感謝を申し上げるとともに、地域住民の皆様の消防団へのご理解とご協力、日本消防協会・愛媛県消防協会の皆様のご厚意とご支援によるものと重ねて深く感謝を申し上げます。

### 新居浜市の紹介

新居浜市は四国の北岸、愛媛県の東部に位置する人口約12万人、面積234.30km<sup>2</sup>の産業都市です。標高1800mに及ぶ石鎚山系に挟まれ、扇型に広がりを見せる平野部と丘陵地及び山



消防団観閲式での腕用ポンプの実演



消防ポンプ操法大会

地からなっています。海岸部は直線約16kmで、本市発展の基盤となっています。

### 新居浜市消防団の沿革

新居浜市消防団は、昭和23年に当時の警防団から改組され、平成15年には別子山村との合併及び女性消防団員の採用に伴い定数を792名とし、現在の1団本部17分団で組織され活動を行っています。

### 日頃の活動について

新居浜市消防団では、毎年度当初に新入団員を対象に初任者教養、5年目以降の団員を対象に機関員担当者教養、幹部には庶務担当者教養の講習を行うことにより、消防団員としての知識及び規律等の修得を図っています。年間を通しての主な活動といたしましては、地域別教養訓練、水防訓練、市民指導員研修（①初期消火研修 ②応急手当研修 ③自主防災研修）、ポンプ操法、消防団幹部教養訓練、一般家庭の防火診断、新居浜市総合防災訓練、住宅用火災警報器の普及啓発活動、火災防御訓練、消防団活性化委員会、山林火災防御訓練等を実施しています。また、新居



浜市は、市内中央部の東西に丘陵が張り出し山林に囲まれた地形的特徴があり、過去に度重なる山林火災を経験した教訓として、2年に1度、全市をあげて大規模な山林火災防衛訓練と水防訓練を実施しています。

年間行事の中で一番盛大な行事が消防団観閲式であります。この観閲式での目玉は、何と申しましても「腕用ポンプの実演」と「梯子乗り操法」であります。この腕用ポンプは大正時代より代々受け継がれてきたもので、10人余りの団員が一条乱れぬ操作で放水実演している様子は、一致団結を旨とする新居浜市消防団としての象徴でもあります。

また、「腕用ポンプの実演」と「梯子乗り操法」など古くからの操法実演は、新居浜市消防団の財産として、将来に渡り技術の伝承を行っていきたくと考えています。

### 地域と連携した防災を目指して

近年、各地で突発的な自然災害が多発していますが、新居浜市では平成16年8月18日の集中豪雨をはじめ、台風16・18・21・23号の連続襲来により9人の尊い命が奪われ、多くの家屋が床上・床下浸水するという大きな被害を受けました。これらの教訓は、我々の防災意識の改革に強く働きかける事となり、その後の活動に多大な影響を与えました。

我々消防団は、自分たちの町は自分たちで守るという崇高な郷土愛護の精神のもと日夜活動を行っていますが、いつ発生するとも知れない災害に備えて、地域住民や関係団体と



消防団観閲式での一斉放水



平成16年の豪雨による被害状況

の密接な連携を図ることが、災害から地域を守るために重要であると再認識しました。そのため、我々消防団は、「地域密着性」、「要員動員力」、「即時対応力」の特性を最大限生かした防火・防災のリーダーとして地域住民から信頼・必要とされる消防団を目指して、地域の中で貢献できる活動・取組を今まで以上に強化するようになりました。

今年度の基本方針では、「自らの地域は、地域住民と共に自らで守る。」を年間目標に掲げ、その達成に向け、①消防団への加入促進 ②自主防災組織との連携と育成の強化 ③消防団市民指導員を核とした防災指導や地域防災力の充実・強化 ④資質の向上に尽力し市民から信頼される団員の育成 ⑤健康管理・安全管理を自ら実践するなど、5つの重点項目の取り組みを遂行しているところです。

### おわりに

将来発生が予想される南海トラフ巨大地震に備えるべく、我々消防団では各分団区域の危険要因の洗い出しとその対策を新居浜市消防団活性化検討委員会で協議し、対応策を検討しております。地域に根付いたこのようなきめ細やかな対策と取り組みこそが、有事において住民の命を守る大きな力となり、本当の意味での「安心・安全」の提供に貢献できるものと考えます。この特別表彰「まとい」の受章を機に、これまで以上に気を引き締め、団員が一丸となって地域住民の生命・身体・財産を守るという重要な使命達成に向けて、さらなる邁進をしてまいりたいと存じます。



## 「我が町を守る」



那須塩原市黒磯消防団 団長 相馬 岩利

### 1 那須塩原市の紹介

那須塩原市は、平成17年1月1日、旧黒磯市と旧西那須野町及び旧塩原町の1市2町が合併し、人口11万7千人の新市として誕生しました。

栃木県の北部に位置する那須塩原市は、首都圏から150km、東北新幹線をはじめとして、東北自動車道及び国道四号線が縦貫しており、都心へのアクセスにはきわめて恵まれていることから、首都圏の通勤圏内となっています。

市内には那珂川・蛇尾川・箒川の清流が奔り、鮎の友釣りやイワナやヤマメを求めて溪流釣りを楽しむ釣り人の姿が多く見られます。

管内には、日光国立公園内の那須高原地域があり、那須岳を中心とする雄大な景観、歴史を誇る塩原温泉や板室温泉、三斗小屋温泉郷等の観光業のほか、米の生産が盛んな農業、全国的にも生乳の生産量の多い酪農業、近年では大型ショッピングセンターの立地する商業、大規模な工場が立地する工業など、バランスのとれた地域経済の発展とともに、豊かなまちづくりを推進する北関東の発展途上の地域です。



通常点検

### 2 那須塩原市黒磯消防団の概要

那須塩原市管内には、黒磯消防団、西那須野消防団、塩原消防団の3消防団があり、平成17年1月1日から連合消防団として活動しています。

黒磯消防団は、本団以下4個分団で構成されております。本年4月1日現在の団員数は、定数730名に対し653名ですが、活動士気は旺盛であり、また女性消防団員の入団も積極的に進めています。

消防用車両等の配備状況は、普通消防ポンプ車19台、可搬式小型動力ポンプ及び積載車24台を配備しております。

### 3 那須塩原市黒磯消防団の活動

消防団の主な活動は、各分団で実施する出初式に始まり、各部団員が一致団結して

挑む消防操法大会、風水害や土砂災害に備えての水防工法訓練、全団員が一丸となり実施する通常点検、春季及び秋季の火災予防週間中はもとより、一年を通しての定期的な夜間警戒と、学校での運動会や避難訓練に参加して、放水体験などを行っています。また、企業や自治会での消防訓練などにも参加して、住民との信頼関係の強化・

防火意識の高い社会づくりを目指し、地域住民の生命・身体・財産を守る活動に励んでおります。

また、消防操法にも力を入れており、日頃から体力トレーニングに取り組むほか、消防技術向上のため消防職員から指導を仰ぎ、消防署と消防団が一丸となり相互の融和・団結を図りながら、全国消防操法大会出場を目標に頑張っております。

その甲斐あってか、平成6年、平成12年、平成16年と過去3度の全国消防操法大会に出場し、平成16年には上位の成績を収めたところですが、今年度はポンプ車操法の部において、4度目の全国大会出場が決定しました。

このような、火災予防活動や日々からの鍛練と消火技術の向上、さらには消防署との連携により、管内の火災は減少してきており、このことが団員達のやる気を掻き立て、火災の起こりにくい街づくりが進み、もしもの災害発生時でも被害の軽減に繋がっていくものと考えております。



消防操法

#### 4 おわりに

近年、火災をはじめ台風や暴風雨による土砂災害、地震といった大規模な自然災害が各地で発生し、多数の尊い人命と財産が失われております。そのような多種多様な災害に立ち向かうため、私たち消防団員は消防人としての高い誇りと、地域住民を守るという責務の重要性を深く認識して活動していかなければなりません。

これから起こり得る有事の際には、昼夜を問わず迅速果敢に活動できるよう、今後も心身の鍛練と技術の錬成に努め、より一層の精進をまいります。



水防訓練





## 「安全・安心感を与えられる 消防団づくりを目指して」



神栖市消防団 団長 野口 来

### 1. 神栖市の紹介

神栖市は、茨城県の東南端に位置し、東側は太平洋に、南側・西側は利根川を経て千葉県に、北西側は鹿嶋市及び潮来市に接した南北に長い形状をしています。市の北部から東部一帯は、鹿島港及び鹿島臨海工業地帯が整備され、製造品出荷額は茨城県第1位、温暖な気候を生かしたピーマンは、ブランド品として高い評価を受け、全国第1位の生産量を誇っています。



出初式での一斉放水

また、南部は波崎漁港を中心に漁業が盛んで、水産加工品などが特産品となっており、商業を含めた各産業がバランス良く形成されています。



出初式での幼年消防隊

### 2. 神栖市消防団の概要

平成17年8月1日、神栖町・波崎町2町の合併により、県内でも有数の団員数を誇る神栖市消防団が発足しました。当時、旧神栖町では分団制、旧波崎町では部制を布いていましたが、平成19年に消防団組織の改編を行い、分団制及

び階級を統一し、平成26年4月1日現在では本部及び60分団、計1,079名で活動をしています。

消防車両の装備については、消防ポンプ自動車23台、小型動力ポンプ積載車36台、水槽付消防ポンプ自動車1台を配備し、消防防災活動に従事しています。

### 3. 神栖市消防団の活動

消防団の主な活動として、1月の消防出初式では、鹿島地方事務組合消防本部及び鹿島臨海工業地帯の各企業防災隊と合同による分列行進・一斉放水を行うなど、新年を迎え新たな決意と意気込みを披露しています。



茨城県・神栖市総合防災訓練

消防団員教育においては、規律礼式訓練や中継送水訓練、消防資機材等の定期点検が行われ、消防力の技術及び消防意識の向上に努めています。

また、10月に開催される消防ポンプ操作大会に向け、7月下旬から消防署職員の指導のもと、出場する代表分団が夜間に操法訓練を行い、資質向上及び団結力を養っています。

毎年実施している市主催の防災訓練で



操法地区大会

は、消防団総力をあげて訓練に参加し、今年8月に県と共催で実施された総合防災訓練では、地域住民の避難誘導や救援物資の輸送・受入れを行うなど、大規模災害時の連携強化及び地域防災力の向上に努めています。

### 4. おわりに

近年、全国各地において異常気象による集中豪雨や自然災害が発生しているなか、消防団に対する期待はますます高まっており、多岐にわたる活動が求められています。今後も、あらゆる災害に対応できるよう、「自分たちのまちは自分たちで守る」の信念のもと、地域住民に安全・安心感を与えられる消防団づくりを目指し、団員一丸となって活動していきたいと考えています。



規律礼式訓練



## 「地域への思い」



井原市消防団 団長 志多木 精二

### 1 井原市概要

井原市は、岡山県の西南部に位置し、西は広島県に接しています。高梁川支流の小田川が、地域の南部を西から東へ貫流し、その流域の平野部に市街地が形成されています。

また、北部は、標高200～400mの丘陵地帯で吉備高原へと続いています。地域の面積は、243.36km<sup>2</sup>で、地形的には井原市街地を除いては、ほとんどが山々に囲まれた農山村です。年間平均気温は約13～15度で年間降水量は1,200mm前後となっています。

全体的に温かな気候に恵まれ、ぶどうやごぼうなどの特産品があるほか、古くから

繊維産業が盛んなため、井原市で生産されたデニム地は、世界の有名ブランドの製品に使用されるなど、高い評価を得ています。

平成17年3月1日、生活・経済・交通圏などで密接な結びつきのあった、井原市、後月郡芳井町及び小田郡美星町の1市2町が合併し、現在の「井原市」が誕生しました。

### 2 消防団の組織

昭和28年4月1日井原町ほか2町7村の消防団が合併し10分団54部、団員2,415名で発足しました。その後、消防機器の整備・機動力の充実に努め団員整理を年次的に行

い、昭和40年常備消防が設置され、分団・部の再編成を行うこととなり、平成16年1月、1団11分団35部で、団員定数792名となりました。

更に、平成17年3月1日、新井原市の誕生に伴い井原市、後月郡芳井町及び小田郡美星町の1市2町の消防団が合併し、現在1団3方面団20分団61部、定員1,405名、実員1,359名



井原市総合防災訓練



(女性消防団員12名) となっています。

### 3 消防団の活動状況

井原市消防団の主な行事は、1月の出初式から始まり、3月には、春季火災予防運動に伴い、常備消防と火災想定連携訓練等を行い、市団の操法大会、5月には、岡山県操法大会に代表が出場しています。6月には、市が主催する、防災訓練に参加します。8月には市の夏祭り、花火大会、美星町で行われる天の川祭りの警備も行っております。9月には団員相互の親睦を図るためにレクリエーション大会としてソフトバレーボール大会を開催しています。11月の秋季火災予防運動には防火パレードを行い、12月には年末夜警を行っています。

そのほかにも、消防本部と合同で、女性消防団員・井原市のゆるキャラ、でんちゅうくんと、火災予防運動期間中に市内のスーパーなどで防火啓発活動を行っています。さらに、それぞれの分団、部において各地区の行事に参加するなど地域に根付いた活動も行い、月2回の資機材点検等により、有事の際に備えております。

### 4 おわりに

魅力ある消防団を作るために必要なことは「地域への想い」だろうと思います。自分の住んでいる町に誇りをもた



署員との合同訓練

ないと、なかなか消防団活動も充実していきません。

消防団は地域防災の要として、いざという時に住民を守ることが使命であり、その期待に応えなければなりません。そのためには、地道でありながらも日々の訓練や活動が大切であります。

「自らの地域は自ら守る」という気持ちで日々頑張りたいと思います。



「でんちゅうくん」との防火啓発



## 「災害のない町から 災害に備える町へ」



大刀洗町消防団 団長 大場 雅之

### 1 歴史に彩られた町 大刀洗

大刀洗町（たちあらいまち）は福岡県の中南域を占める筑後平野の北東部、大河筑後川の中流域北岸に位置します。ユニークな町名は、南北朝の武将菊池武光が合戦で血に染まった太刀を川で洗った故事に由来し、かつて東洋最大と謳われた大刀洗飛行場もその名を冠しています。また、町のランドマークでもある荘厳な「今村カトリック教会」は、隠れキリシタンを祖とするなど歴史のロマンあふれる町です。

### 2 消防団の充実強化

大刀洗町消防団は約30年間、4個分団90名の比較的コンパクトな組織体制で活動してきました。団員も農家や自営業者などが

多くを占め、団員確保や火災出動にも大きな問題はありませんでしたが、近年、団員のサラリーマン化が急速に進み、特に日中火災への出動体制の確保が喫緊の課題となっておりまいました。

そこで、平成26年4月から、町職員10名で構成する本部分団を新設しました。これにより5個分団100名体制、消防ポンプ車は1台増勢となり、日中火災に備えるとともに消防団の組織体制強化が図られたところでした。

### 3 消防団の魅力を高めるために

町の広報誌「広報たちあらい」紙面において、消防団の式典や訓練などを大きく取り上げています。災害現場での活動の様子を表紙にしたり、団長と新成人の対談を企画したりと趣向を凝らし、消防団活動をPRしています。

また、出初式において、福岡県筑後地区南部の伝統行事「馬簾まわし」を取り入れ、昨年からは実施しています。寒風吹きすさぶ中、上半身裸の有志団員が放水を受けながら必死に馬簾を支える姿を一目見ようと、多



放水訓練を行う本部分団員



広報たちあらい表紙 馬簾まわし

くの見物客が詰めかけます。

#### 4 九州北部豪雨の教訓

平成24年7月、「これまでに経験したことのないような大雨」と気象庁が表現した九州北部豪雨が大刀洗町を直撃。町内2つの河川が氾濫危険水位を超え南部地区一帯が冠水し、道路の通行止や住家への被害が発生したため一部地区に避難勧告を発令し、住民131名が避難しました。

大刀洗町消防団は、大雨洪水警報発令後ただちに出動して消防団長の指揮のもと、避難情報の広報、危険箇所警戒巡視等の活動に従事しました。

消防団、住民、行政、各防災機関の連携により、被害を最小限度に止めることができましたが、山がなく「災害のない」大刀洗町にとっては、平成3年の台風17、19号以来23年ぶりの豪雨



九州北部豪雨により冠水した地区

被害でした。

これ以降、大刀洗町消防団は「災害は発生するもの」との認識のもと、水防訓練や救急救命技術の向上に取り組んでいます。

#### 5 おわりに

平地であり「災害が発生するとしたら地震ぐらい」と考えていた大刀洗町も、近年の異常気象により大雨警報が発令されることも珍しくなくなってきました。

火災発生件数が減少する中で消防団には災害対応という新たな役割が求められています。

今後も消防団の重要性がますます高まることを自覚し、町の防災機関として、そして何より地域の担い手として活動していきたいと考えています。



床上浸水を食い止めるべく排水作業する消防団





## シンフォニー（宮崎県）

# 「地域を守るわたしたち消防団」 ～安心・安全なまちづくりのために～

西都市消防団 女性部 部長  
黒岩 潤

宮崎県西都市は、県の中央部に位置して、かつては古代日向の都として栄えました。市内には「古事記」「日本書紀」に登場する伝承地が数多く残るとともに、日本最大の311基の古墳が集まる国の特別史跡「西都原古墳群さいとばる」があるなど、歴史あふれるまちです。その西都原古墳群は四季折々の景観が楽しめ、春には桜2千本・菜の花約30万本や、夏には約100万本のひまわりが、秋にはコスモス約300万本が咲き誇り、多くの観光客が訪れる県内でも有数の観光地です。

本市消防団は、771名（定数800名）の団員で構成されており、私たち西都市消防団女性部は、平成17年4月1日に結成、現在16名の女性団員が所属しています。主な活動として、応急手当普及員の資格を取得して、普通救命講習の指導、火災予防や啓発活動、各種訓練への参加など、その活動は

多岐にわたり防火・防災意識の向上のために積極的に活動を続けています。その中でも、近年急速な高齢化が社会問題となり、全国的にも住宅火災による高齢者の被災が増加傾向にあります。

本市においても例外ではなく、高齢者と呼ばれる65歳以上の割合が、人口の約3割を超え、お年寄りが1人で暮らすお宅も数多く存在します。そのため女性消防団員を中心とした独居老人宅への住宅防火訪問を行い、火気の取扱い状況の確認、消火器の有無や取扱いを指導したり、住宅用火災警報器の普及推進を行うとともに、女性特有のソフトな面を活かして接することで、お年寄りに安心・安全に暮らしていただけるよう心がけています。また、火災予防の啓発活動では、街頭での防火チラシの配布とあわせて、女性部自らが作成した防火アクセサリーや手づくり石けんを一緒に配布



女性消防団員が作成した防火アクセサリーと手づくり石けん

し、女性ならではの視点で防火・防災意識を高めただけのように活動に取り組んでいます。

そうした啓発活動などの常時活動が主な任務の中、私たち女性部は昨年10月に神奈川県横浜市で行われた「第21回全国女性消防操法大会」に宮崎県代表として出場することができました。出場が決定してから大会までの約1年間、仕事や育児、その他の消防団活動を続けながら、朝は夜明け前の暗い時間から夜は辺りが真っ暗になるまで、一生懸命に訓練に取り組みました。

大会前々日までは、台風の影響で大会の実施も危ぶまれ、乗るはずの飛行機にも影響が出て、心中穏やかではありませんでした。しかし、私たち女性部の願いに加え、それまで指導していただいた先輩団員や消防本部職員、日頃の消防団活動は基より操法訓練の期間中支えてくれた家族の思いも通じ、何とか大会会場へ出発することができました。私たちは支えて下さった多くの方への感謝の気持ちに答えるためにも、自分たちにできる精一杯の消防操法を披露しようと誓いました。大会に臨む私たちのスローガンは「一致団結」、これは出場隊員のみならず、それを支えてくれた他の団員や職員、家族と共に、想いをひとつに大会に臨みたいと強く思ったからです。

いよいよ大会当日、皆の思いが通じたのか心配された天候も回復し、予定通り開催となりました。全国大会という大きな舞台で緊張しましたが、私たちの訓練の成果を十分に披露できたと思います。結果は目標とした入賞までは惜しくも届きませんでしたが、「一致団結」して大会に臨めたことは、これからの消防団活動を続けていく上でも貴重な経験となりました。



火災予防の啓発活動「防火チラシの配布」

また、全国的にも女性消防団員による活動が活性化してきています。本県においても今年度から初めて「宮崎県女性消防団員活性化大会」が実施される予定であり、「女性の力」を消防団活動に積極的に取り入れることで、更なる消防団の活性化が図られ、常に地域住民にとって心強い存在でありたいと思います。

地域を守るのは地域に密着したわたしたち「消防団」の責務。そのためにも日頃から私たち消防団員自らが常に防火・防災意識を高め、安心、安全なまちづくりのために活動していきます。



第21回全国女性消防操法大会に出場



## シンフォニー（長野県）

# 私たち「諏訪市消防団女性班」！

諏訪市消防団 団本部 部長

加藤 亜由美

私の住む諏訪市は人口5万人、長野県のほぼ中央にある工業都市です。また、諏訪湖や上諏訪温泉、諏訪大社の上社や霧ヶ峰高原を抱える観光都市でもあります。

江戸時代は高島藩の城下町でもあり、今も高島城はその面影を残してたたずんでいます。戦後は時計、カメラ、レンズなどの生産が増え、山と湖のある風景と相まって、東洋のスイスと称されたことでも有名です。

水がきれいでおいしい事もあり、地酒メーカーも沢山あります。「真澄」、「舞姫」、「麗人」、「本金」、「横笛」と酒造が5つもあり、春と秋の年2回、飲み歩きが行われ全国から日本酒ファンが集まり大変賑わいます。

私達諏訪市消防団は、1本部、8分団、ラップパ班で構成されており、女性消防団員は平成12年の入団を皮切りに平成17年女性班を発足。現在団本部に6名、他各分団ラップパ班に5名と計11名が日々活動をしています。

私達、女性団員の活動内容は、毎月1日、15日の定例防火デーの火災予防宣伝を行い、市内巡回をしています。

団全体で行う規律訓練をはじめ、水防訓練、救護訓練にも参加します。

また、毎年8月15日に行われる諏訪湖上花火大会や9月第1土曜日に行われる新作花火



諏訪市消防団カラーガード隊結成

大会、7年に1度行われる日本三大奇祭とも言われる御柱祭の警備にも参加し、それぞれのお祭りが安全に執り行われるよう尽力しています。

また、本年度より県内初のカラーガード隊の活動も始めました。カラーガード隊は全国女性消防団員活性化大会でのステージ発表に影響を受け、防火・防災の啓発活動と地域の方々に対して、もっと消防団を知っていただき、団員確保に役立てばと考え立ち上げました。

まだ、始めたばかりで練習段階ですが、地域のお祭りや出初式でのパレード参加などを計画しています。

いずれは、全国女性消防団員活性化大会のステージで発表することを目標にしています。

諏訪市を含む3市2町1村がひとつとな



り、諏訪消防協会として操法大会やラッパ班音楽隊の合同練習など6市町村で協力しながら活動しています。

その中の大きな活動のひとつとして、地域のFMラジオ放送で女性消防団員がパーソナリティーとなり、「こちら消防団情報局」という番組を運営しています。

放送内容は防火・防災に役立つ情報や消防団の活動の様子を中心に、団員や地域の方々のインタビュー、行事のお知らせなどです。

また、この活動を契機に女性団員の連携強化と資質向上を図り、団員確保にも繋げようと年1回、勉強会や活動報告、懇親会などを行い、女性消防団員の絆を深めています。

諏訪市消防団本部女性班の最大の特徴として、部長の私以外、4名がフィリピン出身です。

入団のきっかけは、地域の回覧板に載せた「女性消防団員募集！」の記事を見て、興味があるので消防団の活動の説明をしてほしいと連絡を頂いたことです。

フィリピンには消防団に相当する組織がなく、消防団で学んだ知識を家族のため、地域のため、また、帰国した時、フィリピンにいる家族にも伝えて母国に役立てたいと入団を希望してくれました。

その言葉通り、4名は、消防団の活動に積極的に参加しています。水防訓練では土のう作りと土のうの使い方、積み方など知っていれば、フィリピンの台風の時に家族に教えられると真剣に学んでいました。

また、先日フィリピンに帰った時、兄弟の子供が海で溺れ、もっとしっかり救命の動作や応急手当の方法を知っていれば良かったと、帰国後すぐに応急手当普及員の資格を取得しました。

工業都市という事もあり、仕事に就く沢山の外国の方が住んでいま

す。その外国の方にも分かりやすく定例防火デーの広報に英語バージョンを取り入れたり、子供やお年寄りの方々の目をひくよう、カラーガードを使ってもっと消防団をアピールしようと言ってくれたり、いつも新しい提案を沢山してくれます。フィリピン出身の団員が入団してくれたことで、私自身勉強になり、改めて消防団の大切さに気づかされる事ばかりです。

このように、今こそ国籍も関係なく、私達女性団員の活動が地域で必要とされていると考えます。

私達の住んでいる諏訪市を含む6市町村は、平成14年に東海地震の防災対策強化地域に指定されました。大地震発生時には諏訪湖周辺が軟弱地盤なため、液状化被害や土砂災害など、大規模な被害が予測されます。

この時、まさにFMラジオ「こちら消防団情報局」や応急手当普及員の資格を役立て、応急手当の指導や、外国の方々にも英語やタガログ語で説明したり注意を呼びかけたりと、地域の方のために活動できるのは最大の利点です。

「自分たちの地域は自分達で守る」の心意気と、女性ならではの視点で、地域の安心安全のため、次の世代に引き継げる活動をし続けたいと思います。



デビューに向けて練習中

# 消防育英会臨時理事会の開催について

(公財)消防育英会

平成26年9月24日、公益財団法人消防育英会の臨時理事会が、日本消防会館において開催されました。消防育英会 秋本会長のあいさつ、原理事長の議事進行により、各議案について原案のとおり承認されました。

## 議 事

- ・第1号議案 消防育英会の諸規程の制定、改廃について
- ・第2号議案 奨学生選考委員の選任について
- ・第3号議案 (公財)JKA平成27年度補助金の要望について

- 報告事項 (1) 消防育英会支援自動販売機の設置について  
(2) 消防育英会奨学生の状況等について



※消防育英会の奨学金は、公益財団法人JKAの「競輪公益資金」による補助金及び篤志家からの寄付金の基金により給付しております。



「東日本大震災消防殉職者遺児育英奨学基金」への寄付の状況

(平成26年9月18日現在)

寄付件数	寄付金額
1,983件	4億8,455万円

多くの方々の多大なご協力に感謝しております。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

# 「ありがとね！ 消防団 水防団」 消防団水防団応援事業所制度をはじめました

(一財) 岐阜県消防協会

岐阜県では、地域防災の要となる消防団員・水防団員が減少傾向にあることを受けて、地域を挙げて応援する気運を高め、かつ、団員のモチベーションの維持向上、加入促進を図る目的で、応援事業所制度を県内一円で8月1日からスタートしました。その実務的な取り組みについてご紹介いたします。

## ○特徴

県内一円で展開しているので、市町村の枠を超えてサービスが受けられます。「岐阜県消防団員・水防団員カード」はシールとして携帯電話等の携行物に貼ることができるようにしました。また、「QRコード」により、簡単に登録店舗等の情報やサービス内容等を閲覧することができます。

## ○制度スタートまでの流れ

(事業実施までの経緯)

平成24年度末に県水防協会からの提案を受け、県消防課において事業化を検討。

平成25年度に県（消防課）が主体となり、県消防協会、県水防協会と相互に協力する形で実施していくことを決定。平成26年度からの県における制度導入・実施を目指して、財政部局と協議。

平成26年度4月から応援事業所の募集を実施しました。

(応援事業所募集)

8月1日の制度スタートに向けて、関係団体へ制度の周知・理解を求め、事業所登録について働きかけを行いました

県内企業・店舗へは県のHPにより募集を実施し、県生活衛生同業組合、県商店街振興組合連合会、県管理施設、県内で広域に多店舗展開している事業所などには、県と市町村が一体となって取り組みました。結果、スタート時は、736事業所の皆様に登録いただきました。



のぼり旗

## ○事業費

制度導入・実施のための事業費（事務費含む）を県予算（平成26年度当初予算）において計上。

（登録事業所表示証、団員カード、チラシ、のぼり旗等の作成費）

## ○今後の展望

制度の推進、利活用の拡大を図るため、様々な広報媒体を活用した周知・PRを実施するなど、継続して登録事業所の募集・登録を実施していく。また、制度利用者の利便性向上のため、現行の県HPについて、登録店舗の位置情報を簡単に検索できるシステムへ改修する予定。



登録事業所の窓口

### 【担当】

(一財) 岐阜県消防協会 石田 Tel 058-260-4339  
岐阜県庁危機管理部消防課 早崎、日比野 Tel 058-271-4119  
e-mail c11193@pref.gifu.lg.jp



うちの

# 名物団員



茨城県



常陸大宮市消防団 分団長 分団長

藤田 佳史 岡山 久男

藤田・岡山両分団長は、ともに市主催の操法競技大会において、分団を見事優勝に導く経験をもつ、団歴30年以上の大ベテランです。

髭がトレードマークの藤田分団長は、ラグビーで鍛えた肉体と、良く通る大きな声から受ける印象は少し強面ですが、顔をクシャクシャにするその笑顔で、周囲を和ませることに長けています。

岡山分団長は、長身でスマートな印象のとおり、気配り・目配りの豊かな人柄で、団員をはじめ皆からの信望も厚く大変慕われています。

実は二人の共通点がもうひとつ。温和な性格と、強固な消防精神を有するDNAを受け継いだご子息は、消防署員として活躍していることです。非常備、常備の違いはありますが、親子共通の話題があることは実に羨ましく、今後、更なるご活躍をご期待いたします。



岡山県



井原市消防団 芳井方面団 三原分団 団員

西谷 明

岡山県の西部、広島県との境に位置する井原市、その中でも最も北にある芳井町三原地区は岡山県指定無形民俗文化財の「渡り拍子」で有名な自然豊かな山村ですが、現在人口約160人、高齢化率は70%と過疎高齢化の進んだ地区です。その井原市消防団三原分団の団員として地域の安全・安心のために活躍されているのが、西谷明団員です。

昭和49年に入団、平成17年の合併後は芳井方面団長として団員をまとめてこられました。そして今も一団員として「まだまだわしらは若手、三原のことはわしらが守らにゃあ！」と意気盛んです。

公民館長を務める一方、三原一座の役者、ソフトバレーボールの選手、カラオケもお任せあれ。と何でもこなす、三原地区にとってなくてはならない存在です。

見るからに温厚そうな瞳で常に地域のことを見つめ、考え、行動する。うちの名物団員はそんな人物です。



長崎県

西海市消防団大瀬戸方面団 副分団長 部長 班長 団員 団員

白濱 義晴 岸下 輝信 宮崎 正士 作中 修 松田 政弘



長崎県西海市消防団に所属する白濱義晴さん、岸下輝信さん、宮崎正士さん、作中修さん、松田政弘さんの5人は市職員として勤務する傍ら、抜群のチームワークで時代に即した寸劇を披露するグループ「天下島はんちゃん☆ず」の一員として活躍しており、会場を笑いの渦に巻き込んでいます。

これまで「食」や「長寿社会」などをテーマに寸劇を行ってきましたが、方言を駆使した寸劇であるため、独特の表現・

なまりで見物客が何を言っているかを理解してくれているかが心配の種とも。

今後市民のために消防団員、市職員として、災害のない、明るく元気なまちづくりのためにがんばっていきたいとのことです。



## 延岡市消防団 ラップ隊 団員

## 染矢 将広

染矢隊員は、ラップ隊設立当初からの20年以上のキャリアを持つベテラン隊員です。指揮者から吹奏、技術指導まで行い、毎年開催されるラップフェスティバルでは、ドリル演奏の構成を考えるなど、ラップ隊に

は不可欠で兄貴的な存在です。

また、休日は大好きなサーフィン、祭り延岡で太鼓を叩くなど、新たな可能性を日々追求している名物団員です。



## 諏訪市消防団 第五分団機械班 団員

## 小泉 拓也

諏訪市からは伝統産業を守る小泉拓也団員を紹介します。小泉団員は12月末から2月上旬まで毎朝4時に起き明治10年からの伝統産業「氷餅」を作っています。

氷餅は、夜の冷え込みと日中の乾燥した晴天が続く諏訪ならではの名物で、昔から保存食、離乳食として多くの人に支持されてきましたが、現在では2軒のみの製造となっております。

小泉団員は伝統を守るため、そして諏訪市の防火防犯を守るために日々の訓練に励んでいます。



## 大牟田市消防団大正分団 分団長

## 伊津野 満

福岡県最南部に位置する大牟田市。夏は「大蛇山（だいじゃやま）まつり」で熱くなる。消防団員も祭にかかわる者が大勢いる。中でも、伝統を誇る本宮彌剣（ほんぐう やつるぎ）神社の氏子総代である伊津野 満分団長（大正分団18名）は、消防に地域活動にと殊更熱く熱心である。夏祭り開催中に発生した火災時には、祭法被の上から消防法被を羽織ってやってきた。

頼もしい分団長である。



## 丹波市消防団 団員

## 吉竹 仁人

吉竹団員は、消防団に入団してまだ数年ですが、今年の消防操法大会では選手として活躍されました。普段は和菓子店のチーフとして働く一方で、一昨年に地元の劇団「劇研・椎の実」の公演をみて感動し、子供のころから役者への憧れもあってその劇団に入団されました。初舞台はあまり出番はなかったが、今年11月に秋田県で開かれる国民文化祭では出番も多く、公演に向けて日々練習に励んでいます。



## 日光市今市消防団 第3分団第3部 部長

## 我妻 英和

日光の片田舎、ここ小百をこよなく愛する我妻君を紹介します。普段の仕事は3年ほど前に独立した従業員1名の小さな設備屋。その忙しい仕事の合間を縫って消防団をまとめているのが彼です。時には仕事を忘れて消防活動に勤しむ好青年です。操法訓練でも持ち前のリーダーシップをとり、若い団員達を指導しています。操法大会の年でもある本年が、指揮者として挑む13年間の集大成になるよう日々陰ながら努力している我妻君です……。



# 消防団の広場

兵庫県

## 「操法大会に参加して」



篠山市消防団  
第14分団 団員  
山本 大智(指揮者)



第25回兵庫県消防操法大会に参加し、篠山市で小型ポンプの部では過去最高となる5位に入ることができました。これもひとえに選手、篠山市14分団の皆様、協力して頂いた他分団の皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

私は普段分団の担当管内から離れた場所に勤務先があるため、消火活動に参加することができず、実際に資機材を取り扱う機会があまりありませんでした。

このため、いざ出動となったときに、しかも一秒でも早く消火しなければならぬ状況で自分がきちんと役割を果たせるのか、という不安を感じていました。

そんな折、操法大会の選手の募集があり、団員の方からの「練習は大変かもしれないが、今後必ず役立つので参加してみてもどうか。」との勧めもあって立候補しました。

操法練習開始時は動作の流れを把握することから始まったので、動作を覚えることはできたのですが、タイムや規律を重視した練習にきりかわってからは思うようにはいかず、大変苦労しました。

特に余裕ホースをきれいにとり、注水姿勢をしっかりとった状態で放水を行うことが難しく、放水時に筒先がぐらついてしまうことが多々ありました。

そんな不甲斐ない私に諸先輩方は、私がどうすれば上手くできるようになるのかを一緒になって考えて下さり、動作の意味を一つ一つ教えていただきました。

そうした練習を日々重ねていくことで大会直前にはなんとか一連の動作を行うことができるようになり、筒先と第3ホースの結合確認といった操法の各動作の重要性を理解するまでに至りました。練習は大変ではありましたが、一生忘れられない良い経験ができたことに加え、団員の方との交流も深められたため、参加して良かったです。

今回の経験を今後の消火活動に活かし、地域貢献ができればと思います。





平成26年度 全国統一防火標語

「もういいかい 火を消すまでは まあだだよ」

## 11月の日本消防協会関係行事

11月7日(金)	第24回全国消防操法大会激励交流会
11月8日(土)	第24回全国消防操法大会(東京臨海広域防災公園)
11月8日(土)	「地域を守る消防防災展」・「消防団の交流物産展」
11月14日(金)	第20回全国女性消防団員活性化ちば大会(千葉県浦安市)
11月18日(火)～25日(火)	中国消防視察(中国)
11月19日(水)	第30回日中消防協会定期協議会(中国)

## 編集後記

9月27日、御嶽山の噴火により多数の方がお亡くなりになるという、戦後最悪となる火山災害が発生しました。紅葉も始まり、その美しさを楽しむことを楽しみに出掛けた方々を、突然襲った非情なまでの災害に、言葉を失ってしまいます。日本は火山国であることは重々承知していますが、こんなにも突然にこの思いが、誰の心にも浮かんだことと思います。お亡くなりになられた方々へ謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

火山災害と言えば、平成3年の雲仙普賢岳の火砕流で、消防団員12名を含めた43名が犠牲になった災害のことを忘れることはできません。溶岩ドームが大きくなる中、消防団員は住民の安全を守るために懸命に警戒にあたっていたところを火砕流に巻き込まれました。最後まで地域に根差した活動を粘り強く実施するとともに、その役割を貫き通し、大きな危険が押し寄せる極限の中での活動により被災したものでした。仕事を持ちながらも、地域のため災害時には逸早く駆け付け、最後まで組織で活動してくださった消防団員の方々の地域に対する愛情の深さを思い知らされます。

自然災害の脅威の前では、深くこうべを垂れるしかない現実には打ちのめされてしまいますが、それでも、被災した地域に関わって行かなければならない人が大勢います。そんな中で懸命に活動する消防団員の姿は、その人達の歩みを進める大きな役割を、昔も今も担っているものと思います。(T.S)

## 購読募集

購読を希望される方は、(公財)日本消防協会へお問い合わせください。

※ 年間購読料(送料込) 2448円

(問合せ先) 総務部企画担当 03-3503-1481

## 寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取り組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたいと考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Eメールでも受付しています。

soumu@nissho.or.jp

月刊「日本消防」第六十七巻第十号  
平成二十六年十月五日印刷  
平成二十六年十月十日発行

編集人 生嶋 文昭  
発行所 (公財)日本消防協会

印刷所 東京都港区虎ノ門二丁目九十六  
電話 〇三(3503)一四八二(代)

東京都文京区湯島三丁目二十一十二  
日本印刷株式会社  
電話(3833)六九七二(代)

生活協同組合 全日本消防人共済会

# 「火災共済金は1500倍補償」

## B型火災共済

加入口数5口500円から25口2,500円まで  
掛金25口2,500円で最高375万円の共済金

## C型火災共済

加入口数最高200口20,000円まで  
最高限度額掛金200口20,000円で最高3,000万の共済金  
※共済への加入にあたり、組合員となつていただくための出資金が別途必要となります。



### 共済金のお支払い対象 B型・C型共通

火災共済金：火災、落雷、爆発・破裂

風水雪害等共済金：風災、水災、雪災、車両飛び込み、航空機墜落

所在地 東京都港区虎ノ門2-9-16  
日本消防会館6階

連絡先 TEL 03-3503-1439

FAX 03-3503-1480

E-Mail: kyousaikai@nissho.or.jp

URL: <http://www.shouboujin.or.jp>

## 消防個人年金

消防個人年金は、将来の自分の為の積立年金制度で、(公財)日本消防協会が第一生命保険株式会社と締結している拠出型企業年金です。

### 消防個人年金を紹介します

- 1 予定利率は**1.25%**です。
- 2 **月払、半年払、月払と半年払の併用**から払い込み方法をご選択頂き、**掛金1万円**(ゆうちょ銀行は5千円)からご加入頂けます。また、まとまった資金を**一時払**することもできます。
- 3 年金は、**年4回**で受給して頂けます。
- 4 **退団・退職後も継続**できます。



そのほか詳しくは、ホームページをご覧ください。